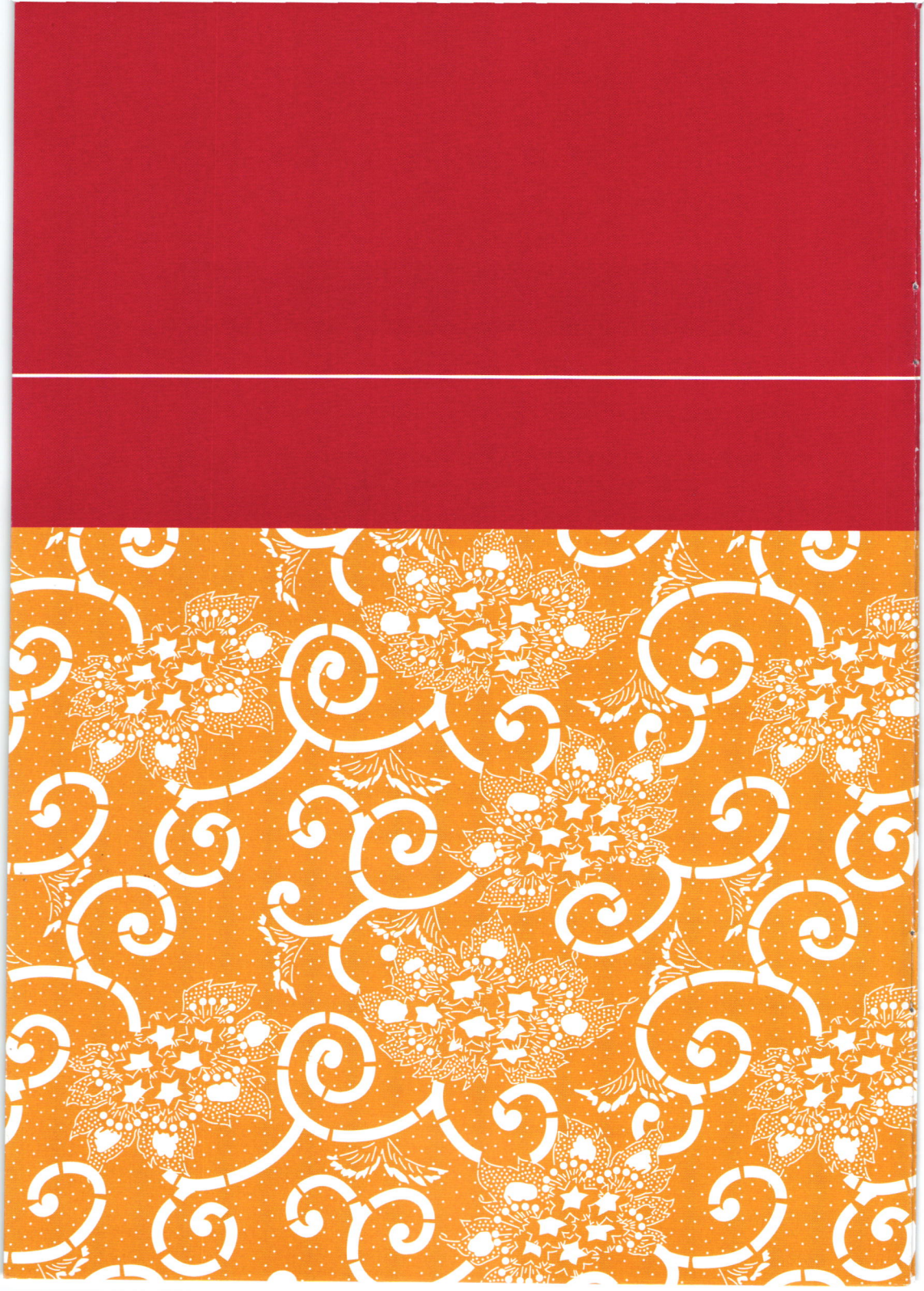


石川 | もっと



石川でしかできない上質な旅





北陸新幹線 【金沢-東京間】 最速2時間28分



金沢駅観光案内所

❁ 金沢駅に着いたらまず観光案内所へ

金沢駅構内新幹線改札口正面にある観光案内所では、石川県全域の観光案内に加え、傘・長靴・車椅子などの貸し出し、当日宿泊予約の受付、宿泊先への手荷物配送サービス（手ぶら観光）、食事クーポンや金沢市内周遊パスの1日フリー乗車券の販売などのサービスを提供。外国語案内カウンターでは、英語による案内も行っています。

〒920-0858 石川県金沢市木ノ新保町1-1 JR金沢駅構内

TEL.076-232-6200 FAX.076-232-6210

◇営業時間／8:30～20:00 ◇休業日／年中無休

《手ぶら観光》

旅先での大きな荷物は困りものですが、荷物を金沢駅で預ければ、その日のうちに宿泊施設まで配送してくれるサービスを利用すると便利（※宿泊者のみのサービス）です。エリアは石川県内全域と福井・あわら温泉です。

【料 金】 荷物1個600円～（配送エリアにより異なる）

【営業時間】 15時まで（届け先により12時まで）に預け、宿泊施設にお届け

【表紙の帯デザインについて】

江戸時代から昭和初期までの「加賀のお国染」と言われる染織品、約2万点にのぼる花岡コレクションより、型染に使われていた絵柄を使っています。

「お国染」とは、加賀友禅の起源とされる加賀地方に昔から伝わる独自の染め技法で、百万石の豊かなお国柄の中で培われた高い技術が反映されています。

【水引に込められたもの】



北陸新幹線で石川県と首都圏がつながり、人とまち、人と文化の新たな出会いと交流がはじまりました。水引の結び目に、これからずっとつながり続ける願いが込められています。



「ひゃくまんさん」
が目印

「もっと石川」で、 ここでしかできない上質な旅を実現。

つなく旅 はじまる

Contents

本物の食を探し求める

- もっと① 極上の食文化を楽しむ 2
- もっと② 食べごろを見極めた職人のすし 6
- もっと③ 石川の食に欠かせない地酒を究める 10

伝統工芸を極めるために

- もっと④ まずは本気でつくってみる 12

歴史ストーリーをめぐる

- もっと⑤ 加賀百万石の下で栄えた武家文化 17
- もっと⑥ 物資と文化を運んだ海路と陸路 20

風景を切り撮る

- もっと⑦ 絶景に出会う 22

心の安眠を求める旅

- もっと⑧ ありのままの自分と向き合ってみる 27

大自然の魅力を体感

- もっと⑨ 自然体験プログラムに参加する 30
- もっと⑩ 白山に登る 32

名作の情緒を味わう旅

- もっと⑪ 松尾芭蕉の足跡をたどる 34
- もっと⑫ 名作の舞台をめぐる 36

石川を深く知る新しい観光スタイル

- もっと⑬ アーキテクチャ・ツーリズム 39
- もっと⑭ 地元の人と深くつながれる旅 42

県民気分で滞在する

- もっと⑮ 里山暮らし気分を堪能 44
- もっと⑯ 町家ステイのすすめ 46

石川
県

石川県 × ぐるなび 特設サイト

石川県とぐるなびがタイアップした観光情報サイト。加賀料理や百万石の鮎、旬の食材が食べられるお店情報を掲載。金沢、能登、加賀、白山のエリア別やジャンル別に観光スポットや観光ルートが検索でき、スマホのGPS機能を使って、周辺情報が探せるのも便利!

石川県 ぐるなび

検索



極上の食文化を 楽しむ



四季折々の食材に恵まれ、数々の伝統工芸が息づく石川では、加賀百万石の文化にならい、その盛りつけに九谷焼や輪島塗の器などを使った優雅な今日の「加賀料理」を築きました。

- 百万石の伝統と文化を目で味わい、
- 季節ごとの豊かな幸を舌で味わう

古き良き日本を思い起こさせる伝統が数多く残る石川。この地を訪れる観光客の多くが楽しみにする「加賀料理」もその一つでしょう。加賀料理というと、漠然と「加賀百万石の豪華な料理」とイメージされますが、実は決まった定義がな

く、加賀料理という名前自体、いつごろ定着したのか、よく分かっていません。

命名の由来には諸説ありますが、そのなかに吉田茂元首相の長男で、小説『金沢』を書いた作家、食通で知られる吉田健一が名付け親だという説があります。この吉田健一が定宿にしていたのが料亭「つば甚」でした。もしかすると、料亭で供された料理がヒントとなって「加賀料理」とい



料理と器が奏でる 加賀料理の神髄

- 器という「着物」によって
- 華麗に変身した郷土料理

「加賀料理」は繊細な技で食材の良さを極限まで引き出し、料理や季節と調和するように器の色や形、素材を吟味し、息をのむような美しさで盛りつけます。

たとえば「治部煮^{じぶに}」と「鯛^{から}の唐蒸し」は「加賀料理」を代表する料亭料理ですが、もともと家庭でも食された郷土料理でした。多くの料亭では「治部煮」は薄手で口が広く、底が浅い「治部椀」と呼ばれる専用の漆器で供し、同様に「鯛の唐蒸し」は極彩色に彩られた九谷焼の大皿に豪快に盛ることで、郷土料理が華麗な「加賀料理」へ変身していくのです。

「器は料理の着物」と言ったのは陶芸家であり、石川県とゆかりが深く、美食家としても知られる北大路魯山人です。ファッションが着る人を引き立てるように、料理もまた、器によってその美しさをより際立たせ、器の方も料理が盛られることでその真価を発揮します。

「加賀料理」は九谷焼や輪島塗、金沢漆器、山中漆器などの伝統工芸品を身にまとい、共演することで、文化・芸術のレベルまで引き上げられていきました。料理と器が奏でる興趣にこそ、加賀料理の神髄があります。

うネーミングが発想されたのかもしれませんが。

「つば甚」の料理長、川村浩司さんは「加賀料理」をこのように考えています。「百万石の伝統が育んできた、加賀の食文化そのものです。豊かな自然がもたらす四季折々の海の幸、山の幸を尊重しながら料理し、料理が最も引き立つように器に盛ります。加賀料理とは器とともに目で味わい、舌で味わうものなのです」





加賀百万石が世界に誇れる料亭の美学

加賀百万石以来の歴史と伝統文化が凝縮された、石川の料亭。料理はもちろん、器や座敷、調度品、庭、女将の立ち振る舞いに至るまで、この地ならではの「もてなしの心」が込められています。

- 武家文化のもと育まれた
- 最上級のもてなしの心

石川県内でも特に金沢は料亭の多いまちです。料亭のみが所属できる「石川県料理業組合」に加盟するのは現在15軒。人口50万人弱の都市で、これだけの料亭を持つのは全国でもきわめて稀有な例といえるでしょう。





料亭の中には、藩政期、あるいは明治以来の伝統を持つ老舗が少なくありません。

歴史ある石川の料亭では、季節に相応しいしつらえを整えるにも、その中身がひと味もふた味も違います。名だたる文人墨客が愛用した数寄屋の座敷、管理の行き届いた庭、所蔵する器や掛け軸、調度品などの美術品は、まさに加賀百万石以来の歴史を知る「生き証人」です。

金沢で最も歴史のある老舗料亭「つば甚」の女将、^{つば}鏑正美さんは言います。「この地の料亭に足を運ばれると、いながらにして凝縮された百万石の文化や歴史を体感することができますでしょう」

■ 風土が育んだ ■ 気配りと立ち振る舞い

料亭でいただく料理は、食材や盛り付け、器に至るまで、春夏秋冬の旬を表現し、日常生活で忘れがちな季節感を思い出させてくれます。そして、忘れてはならないのが、女将や仲居たちの気配りや立ち振る舞い、言葉遣いです。

たとえば金沢では、藩政期以来発達してきた茶の湯にも通じる「もてなしの心」が脈々と息づいており、それが「金沢しぐさ」ともいわれる所作にあらわれています。

とはいえ、料亭と聞くと敷居が高く、「一見さんお断り」というイメージが依然としてあるのも事実でしょう。けれどご心配なく。石川の料亭は、どこでも初めての客も温かく迎えてくれます。

「百万石のたからもの ～あらたな加賀料理にふれる旅～」

まだ料亭の味を体験したことのない方にも加賀料理を楽しんでいただけるよう、石川県内の18の料亭・ホテルでは「百万石のたからもの～あらたな加賀料理にふれる旅～」として、統一価格で加賀料理を提供します。美食と最上の空間を堪能できる石川の食文化をこの機会にお楽しみください。

《キャンペーン統一価格》

昼食 10,000円／夕食 20,000円

(奉仕料・席料・室料込 税別)

参加店一覧など詳しくは

百万石のたからもの

検索

※予約は参加店舗へ直接お問い合わせください。



食べごろを見極めた
職人のすし

「魚・米・水・技」 「四位一体」が石川の「すし」



石川を訪れた観光客に食べたいものを聞けば、「すし」と答える人は多いでしょう。「石川のすし」は豊かな自然と歴史が育んだ魚・米・水・技の「四位一体」が織りなす「食の芸術品」です。

- 「新鮮=美味」にあらず。
- 最もおいしい瞬間に提供

すしの違いというと、「回転するすし」と「回転しないすし」程度に思っている人が多いかもしれません。それぞれに個性がありますが、人々を魅了する「石川のすし」の個性とは一体なんでしょう。

すしネタは近海で獲れた地魚を中心に、産地直送の新鮮なものを吟味して仕入れている—と

いうのであれば、あるレベル以上の店なら、全国どこでもやっていることでしょう。それ以上のことをやっているから、「石川のすし」は「石川のすし」たり得ているのです。その秘密はいくつもあります。

日本人は「魚は新鮮が一番」と信じている傾向があります。しかし、石川のすし職人は「新鮮=おいしい」とは安易に考えていません。鮮度を「食感がコリコリしている」と表現することがありますが、実はこの形容は天然物の専売特許では



なく、養殖物だって活け締めしてすぐは「コリコリしている」のです。

石川のすし職人は、お客が食べる瞬間に最高の状態になるように、材料を吟味し、手間をかけて仕事をしています。たとえ同じ魚でも、季節や大きさが違えば、脂の乗り方や身の締まり方が異なってきます。それを慎重に見極めながら、塩の量や寝かす時間などを微妙に変え、魚それぞれの最高の状態、すなわち、「魚のうまみが最も増した状態」を引き出していくのです。

■ 米どころ・水どころ

■ 工芸王国が生んだ「すし」

しかし、おいしい魚を食べるだけなら、刺身でも事足りるでしょう。「すしはネタ四分、シャリ六分」といわれるように、おいしいすしは、シャリとすしタネの絶妙なバランスから生まれます。そのどちらが欠けても、おいしいすしとはなりません。

石川は、日本海でも有数の好漁場に恵まれた土地であるとともに、おいしい米のとれる「米どころ」、さらに「日本酒王国には名水あり」といわれるように、「水どころ」でもあります。よい米、よい水があって、初めてよいシャリはでき上がります。「魚・米・水」が織りなす三位一体が「石川のすし」が特別である2つ目の理由です。

むろん、すし職人の技も忘れてはなりません。石川県には今も数多くの伝統工芸が息づき、そうした歴史的土壌が育んだ美的センスはすし職人にも受け継がれています。

目の前に置かれた1貫のすし。それは確かな職人技と魚に関する深い造詣、豊かな感性が紡ぎ出した、まさに「食す芸術品」といえるでしょう。



日本海の新鮮なネタを最高の状態で提供するために、石川のすし職人は知恵を絞り、さまざまな趣向を凝らしています。石川県鮨商生活衛生同業組合理事長を務める、「千取寿し」の主人、吉田勝昭さんにこだわりの一端を聞きました。

■ シャリ・ガリ・海苔の
■ 「3つの^{せり}」を重視

「いくら輸送手段が発達したとはいえ、石川に来なければ、本当のおいしさ、を味わえない魚介類はブリや甘エビをはじめ、たくさんあります。でも、石川で魚がよいのは当たり前。このすし職人は、素材のよさにふんぞり返っていません」と語

るのは、金沢で昭和28年創業の「千取寿し」2代目、吉田勝昭さんです。石川のすし職人の多くは、ネタの吟味もさることながら、「3つの^{せり}」、つまり「シャリ・ガリ・海苔」を大事にしているといいます。いずれも、それ自体では商品にならないもの。でも、だからこそ、基本で手を抜いてはいけない、と考えているのです。

たとえば、「千取寿し」のシャリは「地獄炊き」と

魚のよさにふんぞり返らない 基本にこだわる石川のすし職人





呼ばれる方法で釜と薪を使って炊いています。こうすることで、米のうまみを閉じ込めつつ、粘りを抑えたスツクリとしたシャリが炊き上がるのだそうです。「〆利」を考えるのであれば、電気炊飯器を使った方がよほど経済的です。それでも創業62年、地獄炊きにこだわるのは、おいしいシャリができるからなんです」。

使用する井戸水は、近所の酒蔵が仕込みに使うのと同じ白山の伏流水というから、なんとも贅沢。そんな、「これだけは譲れない」「とことん、こだわっている」「どこにも負けない」という自負をもった店主たちが切り盛りしていてこそ、石川のすしといえます。

■ 「煮きり」使わず ■ 地物の醤油で勝負

もう一つの「り」にもこだわりがあります。全国のすし店では、みりんやダシなどを加え、醤油独特の風味を消した「煮きり」を使うことが一般的ですが、石川では「煮きり」を使わない店が多いとのこと。地物魚やシャリと相性のよい「じわもん」の醤油がすでにあることもあって、わざわざ「煮きり」を使う必要がありません。

石川のすし職人は、シャリを握る加減は「強からず、弱からず」を心がけています。指先でつまんで口元に運ぶまでの間に崩れない。そして、すしを口に入れた瞬間、ふんわりとほぐれて口の中で溶けていく。その按配はこれぞすし職人の至芸です。

一般のすし店は、少し敷居が高いようにも感じるかもしれませんが、石川県鮓商生活衛生同業組合に加盟する店のうち32店舗（平成27年10月現在）では「百万石の鮓」と銘打って、特選10貫セット

を3,800円の統一価格で提供しています。腕自慢、味自慢の店主や気さくな職人さんと、カウンター越しに交わす会話も大きな魅力といえるでしょう。



石川のすしをいただくなら「百万石の鮓」

親父の1貫を含む旬のネタを使った特選10貫セット「百万石の鮓」は、石川県内32の参加加盟店にて統一価格3,800円（税込）で味わえます。石川だからこそ提供できる最高の旨さを奥深さをご賞味ください。金沢駅観光案内所ではお得な「百万石の鮓」10貫セットお食事券（各店舗オリジナル特典付）を販売しています。

● <http://ishikawa-sushi.com>

参加店舗など詳細は

百万石の鮓

検索

石川の食に欠かせない 地酒を究める

酒蔵を巡り、

石川の食文化の奥義を知る



純米大吟醸を搾る。この様子は映像での鑑賞となるが、搾りたての酒を試飲させてくれる

日本酒は米と水と微生物に人の力が加わって造り出されるもの。石川県は「五百万石」「石川門」など酒造好適米（酒米）の名産地であり、最高峰の酒米「山田錦」の使用量も全国屈指。水は手取川をはじめ清らかで豊かな伏流水に恵まれ、さらに、高い技術を持つ能登杜氏の存在も大きく、名実ともに日本を代表する酒どころと言われます。

- 里山里海の幸と渡りあう
- 濃醇旨口の酒が多い

和食の基本、醤油、味噌、米酢、みりんはいずれも麹による発酵調味料で、日本酒と和食の相性のよさは言わずもがな。ふぐの子糠漬けやかぶら寿しなど石川県独特の発酵食とのマッチングも抜群で、日本海の幸や里山の幸を一層引き立ててくれます。

石川県の酒は「特定名称酒*」が占める割合がとて高く、純米酒の比率は全国3位です。いい材料を使い、手間暇をかけて真面目に造られる、それが石川の酒の特徴と言えます。

そんな石川の酒の神髄を知るには、酒造りを行っている現場、つまり酒蔵を見学するのが近道です。

*普通酒に対し、「吟醸酒」「純米酒」「本醸造酒」は特定名称酒と呼ばれ、それぞれの原料・製造方法などの条件が定められています。



■ 自然と対話しながら醸す、
■ 神事とされる酒造り

金沢市にある「福正宗」^{か が び}「加賀鳶」などの銘柄で知られる福光屋は、生産量1万石以上の酒蔵では日本で唯一、純米酒だけを造っています。300株もの酵母を保存して、飲み手の好みやシーンにあわせて選べる多彩な銘柄を展開しています。

福光屋の酒蔵(蔵元)見学は酒造りシーズンの10月～4月の月・金曜日限定で開催。見学は有料ですが、他ではなかなかできない中味の濃い見学ができると人気です。酒造りの工程や理念を映像で学んだ後、蔵の中へ。自然の摂理と真正面に向き合う日本酒造りを間近で観察すること

で、見学者は酒造りを深く理解できます。そして搾りたての新酒を味わったり、季節限定酒や定番のお酒を、きき酒師などの説明を聞きながら飲みくらべ、日本酒の高度な知識と感覚が体験できます。

石川の食に欠かせない地酒を究めるなら、酒蔵に出向いて酒造りのプロ(エキスパート)の話を耳を傾けてみてはいかがでしょうか。



重要な工程「酵母造り」を間近で見学



福光屋

●金沢市石引2丁目8-3 ☎076-223-1161
10月～4月の毎週月・金、15時から90分の蔵内見学コース(試飲あり)を実施。料金1,000円(500円の直営店での買い物券つき)、10日前までに要予約。10月～4月の毎週水・日は11時から映像鑑賞と試飲のお気軽コース(無料)もある。3日前までに要予約。



予約すれば酒蔵見学ができる蔵元

- 初桜(櫻田酒造)
- 大江山(松波酒造)
- 竹葉(数馬酒造)
- 谷泉(鶴野酒造)
- 金鰐白駒(日吉酒造)
- 奥能登の白菊(白藤酒造)
- 能登末廣(中島酒造)
- 天平(布施酒造)
- 長生舞(久世酒造)
- 加賀鶴(やちや酒造)
- 御所泉(武内酒造)
- 高砂(金谷酒造)
- 夢醸(宮本酒造)
- 神泉(東酒造)
- 加賀ノ月(加越)
- 春心(西出酒造)
- 常きげん(鹿野酒造)

- 珠洲市蛸島町393
- 鳳珠郡能登町松波30-114
- 鳳珠郡能登町宇出津へ36
- 鳳珠郡能登町鶴川19-64
- 輪島市河井町2部27-1
- 輪島市鳳至町上町24
- 輪島市鳳至町福荷町8
- 七尾市三島町52-2
- 河北郡津幡町清水イ122
- 金沢市大樋町8番32号
- 金沢市御所町イ22乙
- 白山市安田町3-2
- 能美市宮竹町イ74
- 小松市野田町丁35
- 小松市今江町9丁目605
- 小松市下栗津町24
- 加賀市八日市町イ6

- ☎0768-82-0508
- ☎0768-72-0005
- ☎0768-62-1200
- ☎0768-67-2311
- ☎0768-22-0130
- ☎0768-22-2115
- ☎0768-22-0018
- ☎0767-53-0027
- ☎076-289-2028
- ☎076-252-7077
- ☎076-252-5476
- ☎076-276-1177
- ☎0761-51-3333
- ☎0761-22-2301
- ☎0761-22-5321
- ☎0761-44-8188
- ☎0761-74-1551

- 試飲なし。1～3月の酒造り期間中のみ、状況次第で予約受付
- 電話予約は3日前まで。無休
- 予約は1週間前まで。第2・第4日曜休み
- 予約は1週間前まで。試飲は有料。無休
- 1月下旬～2月下旬。水曜休み
- 日曜休み
- 無休
- 予約は3日前まで。月・木曜休み
- 通年受付(12月～2月がベスト)。日曜休み(予約すれば見学可)
- 酒蔵見学と試飲300円(買物利用可)。日・連休最終日休み
- 見学日時は応相談
- 1～3月の繁忙期以外。不定休。酒蔵を改装したレストランを併設
- 土曜は不定休、日・祝日休み
- 不定休
- 10月下旬～4月中旬。土・日・祝日休み
- 試飲をする場合、おちょこ代として100円。木曜休み
- 試飲なし。11～3月。日・祝日休み

※上記の情報は2015年10月1日現在です。記載がないものは見学・試飲は無料。

※見学は必ず予約をお願いします。直前の予約は対応できない場合もありますので、早めのご予約を。年末年始(一部は年始のみ)はすべて休業です。繁忙期など見学できない日もあります。

※断りがないものは通年見学受付していますが、酒造り時期以外は仕込み作業を見ることはできません。詳しくは各蔵元へお尋ねください。

第

一級レベルの 工芸の技を体験する



石川県には、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・金箔製造など、日本の主要な工芸のほとんどが、第一級のレベルで存在し、石川の文化力を支えています。そんな石川の伝統工芸の奥深さを知るには、日数をかけて本気で体験するのが一番です。ここでは、「加賀友禅」「九谷焼」「木地挽き」、この3つの伝統工芸の扉をたたいてみましょう。

- 奥ゆかしい「加賀五彩」の色調、
- 自分だけの加賀友禅を描く

加賀友禅が生まれたのはおよそ500年前、梅染と呼ばれた加賀の国の染め技法にその原点があります。その後、京都からこの地に移り住んだ宮崎友禅斎によって、より完成度の高い加賀友禅へと研ぎ澄まされていきました。臙脂・藍・黄土・草・古代紫の加賀五彩で構成された控えめ

な色調でありながらも、全体から醸し出す凛とした美しさこそ、加賀友禅の優美な世界といえるのではないのでしょうか。

そんな、加賀友禅の制作に本格的に取り組むことができるのが、加賀友禅作家として活躍中の下村利明氏の工房「友禅アート染華」です。加賀友禅の魅力を一ひとりで多くの人に知ってもらえるきっかけとなればと、滞在型の制作体験を受け



入れています。ここでは実際の工房で、作家さんと同じ材料や道具を使って加賀友禪の工程をすすめていきます。

■ 本物志向のものづくりは、 ■ 滞在型の体験で学ぶ

おすすめは、3泊4日の「帯制作コース」。図案、下絵描きから、下書きの線に沿って糊を置く“糸目糊置き”、色を入れる“彩色”など、加賀友禪の正式な工程を、順を追って進めます。工房での作業を通して、手間ひまかけて作られている加賀友禪への理解と知識も深まります。

加賀友禪制作の旅

お問い合わせ

● 友禪アート染華

金沢市専光寺町二198 ☎076-268-4688

※実施の日時は、1カ月前に申し込みいただき、希望日時と工房の都合により調整となります。

《制作プラン例》

「加賀友禪染め帯制作コース」 日程:3泊4日

1日目 下村工房で製作工程説明の後、図案・下絵描き作業など

2日目 青花下絵に糸目糊置き〜地入れ

3日目 彩色

4日目 地染め

※本蒸し・水洗・湯のし等の作業を工房側で行い完成した反物を発送

詳しくは
ぐるなびサイトへ



《その他のプラン》

○手描き友禪八掛付き無地染きもの制作コース

日程:2泊3日

○友禪染ガラス絵皿制作コース 日程:1泊2日

● 一般社団法人 加賀友禪文化協会

(加賀友禪会館内)

金沢市小將町8-8 ☎076-224-5522

●9:00〜17:00 ●水曜(祝日を除く)、年末年始

※実施日時については、1カ月前に申しいただき、加賀友禪会館との調整となります。

《制作プラン例》

「加賀友禪染額制作コース」 日程:2泊3日

1日目 加賀友禪について座学、図案と下絵作成

2日目 糸目糊置き

3日目 彩色

この他にもショールづくりコースがあります。





■ 九谷焼の大作を間近に見つつ、 ■ 窯元で修行する

九谷焼は、九谷の「五彩」とよばれる、赤・黄・緑・紫・紺青の色絵を特徴とする磁器です。藩政時代、春日山窯の開窯をきっかけに、若杉窯、吉田屋窯などが次々と開窯し、それぞれの特徴を生かした九谷焼の作品が作られました。海外では「ジャパンクタニ」として知られるなど、石川が世界に誇る伝統工芸として今に受け継がれています。

現代を代表する九谷焼作家、三代浅蔵五十吉氏の工房「浅蔵五十吉深香陶窯」では、四代目浅蔵夫妻が九谷焼上絵付け体験のほか、時間をかけてゆっくり指導を受けたいという希望にも

対応しています。工房のある敷地内には二代、三代の大作が並ぶ展示室があり、本物をこの目で見ながらにして絵付けに取り組むことができます。実際に作家が制作されている隣での作業となるので、九谷焼の世界を知りたい、じっくり制作してみたいという本気の方向けです。

九谷焼ビクネームの工房で上絵付け体験

お問い合わせ

● いしかわ体験ランドClub ☎076-287-6521
メールアドレス: a_gaia@taiken-komatsu.com
<http://taiken-komatsu.com>

※日時の調整、その他質問・ご要望はご相談ください。工房の都合により、体験日時のご希望に添えない場合があります。

体験場所

● 浅蔵五十吉深香陶窯
小松市八幡九ヶ丘50-1



■ 伝統の木地挽きで、 ■ 山中漆器を深く知る

木地挽きとは、轆轤^{ろくろ}を用いて木地をくり抜き、漆器の基となる椀や皿、盆などの形に加工すること。温泉街として知られる山中町は、そんな「挽物^{ひきもの}」の一大産地で、全国でも群を抜いた職人の数や質を誇っています。

木地挽きは本来、一人前になるまで10年かかると言われる奥深い技術。そのため短時間の体験よりも、旅館に泊まりながら数日かけて取り組み、受け継がれてきた技術や歴史ある漆器文化により深くふれることをおすすめしています。

轆轤^{ろくろ}を回して鉋^{かん}を当てる瞬間はとても緊張しますが、木材がシュルシュルと思い描いた形に削られていくのは何とも爽快^{かしよく}。「加飾」と呼ばれる山中独自の技術で、器に美しい模様を付けることもできます。刃物を扱うためベテランの職人がつきっきりで指導します。



形成した器は職人が漆を塗って完成させ、自宅まで郵送してくれます。自分が削り出した漆器を手にする喜びは格別。数ある中から好みの形を選ぶので、家族や友人とお揃いの漆器をつくるのもよいでしょう。世界で一つの作品を作り、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

詳しくは
ぐるなびサイトへ



山中漆器の文化にふれて 「ろくろの里で木地挽き体験」

お問い合わせ

● 加賀市観光情報センター-KAGA旅・まちネット

☎0761-72-6678

※体験日時のご希望に添えない場合があります。日時の調整、その他ご質問・ご要望はご相談ください。

体験場所

● ろくろの里 工芸の館(水曜定休)

加賀市山中温泉菅谷町1-1 ☎0761-78-2278

《制作プラン例》 日程:3泊4日(基本は月曜～木曜の4日間)

1日目 山中漆器伝統産業会館にて山中漆器の展示品鑑賞の後、ろくろの基本などを学び、ろくろ挽きを体験

2日目 ろくろ挽きを体験(木地挽き工房、山中漆器店ほか周辺観光地めぐり)

3日目 自由に近郊観光

4日目 作家と漆器談義、漆塗り工程見学ほか



これに漆が施されて手元に届く





さらにもっと!

漆を極めるには、まず輪島から

石川県には輪島塗、山中漆器、金沢漆器と、3つの伝統的工芸品産業としての漆器産地があります。3つの産地をめぐりながら、本物の工芸を知って学んで楽しむ“目利きの旅”はいかがでしょう。

目利きの旅をはじめ

輪島は、古くから膳板を全国に供給し続けてきた漆の聖地で、今も漆芸の芸術院会員や人間国宝が何人もいます。石川県輪島漆芸美術館は、古今の銘品、アジアから輪島まで、貴重な作品資料を集めた漆の殿堂で、学術書も自由に閲覧できます。漆を知るには、ここを拠点に町を教室にしましょう。裏の広場のうるし樹を、これか! と一見するといいですね。隣には漆器組合の精漆工場、近くに漆器木地製材所もあります。木地師工房やうるし屋さん、漆工材料店を見つながら輪島の街を歩き、民宿の内装が漆塗りや驚けば、そのまま漆の理解に繋がるでしょう。

市内には若手作家が気軽に自作を紹介するお店も多く、モダンな輪島塗を作者との交流を楽しんで吟味して回れば、納得の器と出会えるでしょう。

木の本性を生かす山中の轆轤技術

山中温泉で続いてきた山中漆器は、椀や鉢、盆など丸物の木工轆轤技術で名高く、何度も漆で拭きあげて杢目の美しさを引き出すのが特徴です。木の本性を知り尽くし研ぎ澄まされた鉋の技の牙えを、器形のアールや口づくりの精妙さにぜひ見て取ってください。

山中は塗りや蒔絵の実力も高く、^{なつめ}裏作品などにはそれがよく表れています。

華麗で高尚な加賀蒔絵

金沢漆器は個人工房単位での制作で、金沢に漆器産地的な雰囲気は無いですから、一般的な見学先ありません。加賀藩以来の華麗で高尚な逸品制作の伝統は、加賀蒔絵と言ったほうが分かりやすいでしょう。その観賞理解には、まずは石川県立美術館や金沢市中村記念美術館などで作品をたくさん観ることです。また、漆は硬化に時間がかかり簡易な体験をしにくいのも、教室が少ない一因です。

漆工芸を極める裏ワザあり!

加賀蒔絵のみならず漆工芸を学び、購うお勧めの裏技は古美術店訪問。金沢は全国有数の古美術の町なのです。散在している金沢のお店は気取らず、案内に入りやすく、優品銘品から手軽な漆工品までさまざまあり、見どころも技法もきつと親切に教えてくれるでしょう。ただし断ってからふれるなどマナーはわきまえて。ついだからそれらも素直に教われれば、話はさらに弾むに違いありません。 文／金沢学院大学教授 山崎達文

石川県輪島漆芸美術館 MAP▶③輪島市街

●輪島市水守町四十剱11 ☎0768-22-9788

🕒9:00~17:00 🗓年末および展示替期間 🎫一般620円／高・大学生310円／小中学生150円



加賀百万石の下で 栄えた武家文化



金沢城と兼六園、 百万石の武家文化の中心を訪ねる

今日の石川に息づく伝統工芸や芸能の多くが、加賀藩政時代に取り入れられたものです。兼六園や金沢城をはじめ、まちを丹念に歩くと、加賀の武家文化の素晴らしさに出会えます。

■ 築城の歴史がここにある

加賀前田家102万石の支配地は加賀・能登・越中の3カ国にまたがり、5万石の本多家、3万石の長家など1万石以上の家老が8家もあり、足軽まで加えると約2万の武士・軽輩が城下町に屋敷を構えていました。そのど真ん中に金沢城があって、政治・文化の中心をなしていました。小立野台地先端にあった金沢城は、藩祖前田利家が百間堀を掘り本丸に高石垣や天守を築いた頃、台地から切り離され四方に堀をめぐらす独立の城地となり、それから280年、変わらず前田家の城、武家の拠点として歴代藩主がここに君臨したのです。

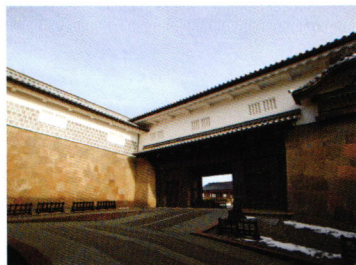
なかでも金沢城のシンボル石川門は、江戸中期の火災で焼失し30年経った天明8年(1788)に再建された姿で今も城下を見守り、城内に残る最古の前田時代の遺産となっています。城門なので防御や攻め来る敵を攻撃する機能を当然備えています。泰平の江戸だけに美観や権威を示す意匠に気配りがあり、金沢らしいとされています。石川門から三の丸広場に進むと、橋爪門・河北門・菱櫓・五十間長屋が復元されており、江戸時代にタイムスリップした感覚を覚えます。明治時代に陸軍の兵営となり、戦後は金沢大学のキャンパスであった歴史を忘れ、江戸時代の加賀藩武士が殿様のため登城してきたような錯覚に



石川門に見る、 石垣の博物館たる所以

石垣の種類が豊富な金沢城でも、石川門の石垣は右【切り込みハギ】、左【打ち込みハギ】と同じ場所で違う積み方をしている珍しい例です(写真右)。

また、金沢城の石垣には、「陰陽石」など意味をもった石が組み込まれたところがあります。写真は火災から城を守ったという「亀甲石」(写真左)。土橋門と三十間長屋の石垣のどこかで見ることができます。探してみてください。



石川門 MAP▶②金沢市街 B-1

屋根の鉛瓦と白の漆喰壁に海鼠壁がマッチし、白が際立つ国の重要文化財。これほど完全に枳形門の様式を示す城門の遺構は全国にはない。

とらわれるでしょう。

復元された橋爪門は、殿様の住む二の丸御殿に至る正門です。ここを起点に本丸を散策すると兼六園や城全体を俯瞰でき、二の丸の西側にある玉泉院丸庭園も一望できます。

■ 成巽閣から武家屋敷へ

石川門の対面には、日本三名園のひとつとして知られる兼六園が広がります。5代藩主綱紀の作った外庭で、藩主の別荘であり接客の場でした。

夕顔亭・翠滝付近は創建当初の姿がよく残り、霞ヶ池・^{ことし}徽軫灯籠・唐崎松・さざえ山付近は12代斉広の隠居所(竹沢御殿)が作られたあと、新たに造園された空間で、13代斉泰が父斉広を慕い整備した庭でした。国元の大名庭園の様相をよく残しています。

兼六園の東隅にある、成巽閣に足を運べば、飛鶴庭など武家の庭園文化の奥深さをさらに堪能できます。12代藩主夫人の隠居所として1863(文久3)年に創建され、女性の御殿らしい細やかさと紅殻やマリンブルーの色壁など大胆な色使いに圧倒されます。



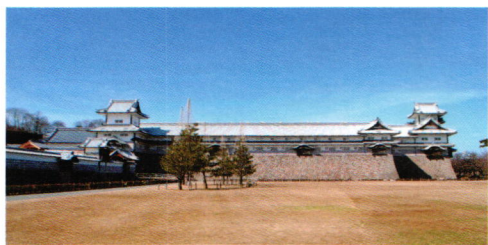
もうひとつの大名庭園 「玉泉院丸庭園」



二の丸御殿に隣接する殿様の家族のための内庭「玉泉院丸庭園」。3代利常が辰巳用水を泉水に引き込み、高低差を生かし周囲の石垣までも庭の一部に取り込んだ異色の庭です。その後も5代綱紀、13代斉泰などが趣向を凝らした庭作りを続けたものの明治初期廃絶。今春、140年ぶりに幕末期の姿を取り戻した、もう一つの大名庭園であります。なかでも色紙短冊積み石垣は、5代綱紀時代の庭作りをしのばせる異色の庭園石垣となっています。

お問い合わせ

●石川県金沢城・兼六園管理事務所 ☎076-234-3800



金沢城公園 MAP▶②金沢市街 B-1

復元された菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓

金沢市丸の内1-1 ☎076-234-3800 ③3月1日～10月15日 7:00～18:00、10月16日～2月末日 8:00～17:00 ④年中無休 ⑤大人(18歳以上)310円、小人(6歳～18歳未満)100円

城を出て片町・香林坊の繁華街の裏通りを用水沿いに歩けば、前田土佐守家資料館、城下の豪商中屋(薬種商)の建物を移築した金沢市老舗記念館、そして中級武士が住んでいた長町武家屋敷跡、城下縁辺から移築した足軽屋敷が2棟並んだ金沢市足軽資料館など、城下に住む武家文化の足跡や風雅をたどることができます。

文／石川県金沢城調査研究所所長 木越隆三



辰巳用水と兼六園噴水

兼六園の噴水は、金沢城二の丸に辰巳用水の水をあげるため、試作したものとされています。現存する日本最古の噴水で、自然の水圧によって水が吹き上がっています。



●兼六園 MAP▶②金沢市街 B-1

国の特別名勝。日本最古の噴水、唐崎松の雪吊り、根上松の奇観、初代が天然記念物だった兼六園菊桜など季節ごとに数々の見どころがある。金沢市兼六町1-4 ☎076-234-3800 ③3月1日～10月15日 7:00～18:00、10月16日～2月末日 8:00～17:00 ④年中無休 ⑤大人(18歳以上)310円、小人(6歳～18歳未満)100円

さらにもっと!

I お城のしめ飾り

金沢城公園の橋爪門、一の門に、毎年お正月用のしめ飾りが飾られます。「加賀藩儀式風俗図絵」より元旦



登城の絵を参考に再現されたもので、その形から「数の子飾り」といわれています。しめ飾りが掲げられた城門はめったに見られない風景。ぜひこの期間に足を運んでみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ

●石川県金沢城・兼六園管理事務所
☎076-234-3800

2 古地図めぐり

金沢をより深く知ってもらうための活動をする観光ボランティアガイド「まいどさん」が、金沢市制作の「金沢古地図めぐり」に記載された、江戸末期安政4(1857)年ごろの古地図を利用して、城下町金沢の重要伝統的建造物群保存地区などをガイドしてくれます。

お問い合わせ

●金沢市観光協会 ☎076-232-5555

※「まいどさん」ガイド申し込みは希望日の7日前まで。ガイド料は無料ですが「まいどさん」の交通費、入場料等の実費はご負担ください。

3 お城めぐりの名ガイド

金沢城築城から現在の金沢城公園の見どころなど、お城の新発見に出会うなら、「城と庭のボランティアガイドの会」の方に案内してもらうのが一番。金沢城が石垣の博物館たる所以など、“なるほど”という話を教えてもらえます。

※ガイド申し込みは、金沢城石川門入口および玉泉院丸庭園休憩所に随時受け付け。

●加賀百万石の歴史を1日ゆっくり堪能

1日目

バス10分 金沢駅＝金沢城公園(金沢城公園散策と菱櫓・五十間長屋見学) 徒歩5分 兼六園(園内散策) 徒歩5分 成翼閣
＝前田土佐守家資料館 徒歩10分 金沢市老舗記念館から長町武家屋敷跡、金沢市足軽資料館へ 徒歩5分 金沢駅(もしくは金沢泊)

詳しくは
ぐるなびサイトへ



物資と文化を運んだ 海路と陸路

大 海と陸の物流 いなる繁栄をもた らした



北陸新幹線という新たな大動脈が誕生した今。古代から近代にかけて、石川県に大いなる繁栄をもたらした物流の変遷を、名所、旧跡などを訪ねながらたどってみます。

■ 古来より大陸との交流のあった地

石川県は、日本列島のほぼ真ん中にあり、古くから交通・交流の要所として発展してきました。古代には、大陸からの使いが福浦湊をめぐりて渡来。羽咋の気多大社も、客人をもてなす儀礼や祭祀の空間に通じるとの説もあります。

近世、加賀藩の時代に至ると、半島沿岸の良港は北前船の港として賑わいます。遠く蝦夷地から瀬戸内・畿内の品々と文化が、この地にもたらされました。その名残りは、例えば、總持寺祖院の玄関、黒島（門前町）の伝統的な街並みや豪壮な

天領祭りの山車をはじめ、能登の各地に見ることができます。

■ 海路と陸路による恩徳

もちろん北前船といえば、加賀の橋立や塩屋・瀬越に残る船主屋敷と贅を尽くした調度品にも、その栄華をしのぶことができます。

一方、陸路に関していえば、古代の北陸道にはじまり、近世、大名行列が往来した北国街道も、沿道に豊かな経済・文化の恩徳をもたらしました。野々市・松任・寺井・津幡などの街道の街



旧福浦灯台 MAP▶①B-2

●羽咋郡志賀町福浦港

石川県文化財指定の日本で一番古いといわれる木造灯台



輪島市天領黒島角海家 MAP▶①B-1

●輪島市門前町黒島町口94-2 ☎0768-43-1135
北前船の廻船問屋として栄華を誇った角海家の収蔵品を展示

●9:00～17:00 ●月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 ●一般310円、小中学生150円



門前町黒島地区の街並 MAP▶①B-1

400年以上前から廻船問屋のある船主集落として発展。重要伝統的建造物群保存地区に選定されている

並みが、時代を超えて私たちを宿駅、宿場に運んでくれます。

鉄道による交通革命

しかし、その画期となったのは、何といっても明治30年代の北陸線の開通といえるでしょう。この交通革命は北前船の衰退をもたらし、鉄道による物資の輸送を支え、何より鉄道の旅が庶民に広がることにより、名所旧跡をめぐる文化が定着してきます。

加賀温泉郷を結ぶ温泉電軌、白山麓、白山比咩神社への金名線、金沢から郊外へ行き交う松金線、浅野川・金石電鉄など、行楽地や遊園地をめぐる電鉄網は人々の移動を盛んにしました。小松から尾小屋に敷設された鉱山鉄道は、今もその軽便鉄道の遺産が観光資産としても活用されています。

このように、石川県には県域の各地に歴史的な背景に裏打ちされた観光スポットが散在し、これらの賑わいを時代時代の交通交流網が豊かに支えていたのです。

文／金沢星稷大学教授 本康宏史



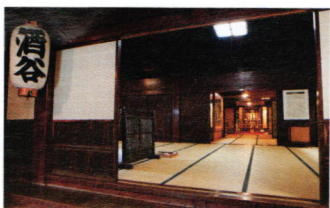
喜多記念館 MAP▶①B-3

●野々市市本町3-8-11 ☎076-248-1131

●9:00～16:00 ●無休

●一般400円、小人200円

石川県に遺存する町屋の中では年代も古い貴重なもの



北前船の里資料館 MAP▶⑤加賀周辺

●加賀市橋立町乙1-1 ☎0761-75-1250

●9:00～17:00 ●無休 ●一般310円、75歳以上150円、高校生以下無料

橋立の北前船主、酒谷長兵衛の邸。「北前船」に関するさまざまな資料を展示



北前船主屋敷 蔵六園 MAP▶⑤加賀周辺

●加賀市橋立町47 ☎0761-75-2003

●9:00～17:00 ●無休(臨時休園あり) ●一般400円、小学生以下200円

北前船船主酒谷家の屋敷庭園。国登録重要有形文化財

詳しくは
ぐるなびサイトへ

● 渤海交流にはじまる海と陸の交流をめぐる

1日目

金沢駅(午前発) = 車90分 = 福浦港・旧福浦灯台 = 車40分 = 輪島市黒島天領角海家
門前黒島の街並(重要伝統的建造物群保存地区) = 車30分 = 輪島温泉郷(泊)

2日目

輪島温泉郷(発) = 車90分 = 気多大社 = 車60分 = 喜多記念館 = 車40分 = 北前船の里資料館 = 車40分 = 金沢駅もしくは小松空港(午後着)



※車の所要時間はおおよそのものです。

美しい瞬間を求めて、 石川へ通いつめる



日本海から高山帯まであり、四季の変化がはっきりしている石川県は、風景写真を楽しむ人々に人気のエリアです。ここではとっておきの絶景写真でその魅力をお伝えします。

■ 奥能登の絶景

しろよね
白米千枚田で10月中旬から3月中旬にかけて開催されるイルミネーションイベント「あぜのきらめき」は、棚田のあぜに設置されたソーラーLEDがきらめき、写真映えする情景を提供してくれます。

明るいうちから準備を整えて、完全に暗くならな

いうちに海や空の表情も一緒に表現するのがポイントです。

晴れた日はもちろんのこと、荒れた天気は日本海の白波が力強く写ることから、むしろ好条件といえます。雪の降る日は白くお化粧されたあぜにイルミネーションが灯ります。海風で雪はすぐに消えるので、雪が降っているときにチャンスです。白米千枚田はいろいろな条件で訪れてほしいところです。



白米千枚田 あぜのきらめき
LEDライトは約30分ごとにピンクとイエロー
が入れかわる。日没から4時間点灯
●輪島市白米町 MAP▶①C-1



見附島から立ち上る天の川と月
特異な姿が印象的な見附島は、昼間だけでなくデジタルカメラの高精度
特性を生かして星空とともにとらえたいところ
●珠洲市宝立町鶴飼 MAP▶①C-1



機具岩 (はたごいわ)
1年中、夕日と一緒に狙える
●羽咋郡志賀町七海 MAP▶①B-2



冬の日本海と波の花
白米千枚田に近い曾々木海岸で撮影
●輪島市町野町 MAP▶①C-1



白米千枚田の朝
稲刈り前の情景。いろいろな季節に訪れたい
●輪島市白米町 MAP▶①C-1



■ 地形の変化に富む加賀の絶景

白山白川郷ホワイトロードは標高差800m以上を誇り、10月中旬から冬季閉鎖になる11月初旬まで、どこかで紅葉が楽しめます。紅葉の初期は、タイミングが合えば冠雪した白山と紅葉の絶景が撮影できます。紅葉は次第に下降して蛇谷峡谷の

滝群が見頃になるのは10月下旬頃です。

白山の展望を撮るならば晴天が条件になりますが、滝を撮るなら光が柔らかい曇りの方が撮りやすいでしょう。

そして本当は雨天が秀作をものにするチャンスです。岩盤が発達した蛇谷峡谷は一気に増水しますが、雨が止めば水が汚くのも早いのです。



那谷寺 ●小松市那谷町 MAP▶⑤加賀周辺
白山ゆかりの那谷寺は石川を代表する紅葉スポット



桜と月の軌跡 ●小松市木場潟 MAP▶⑤加賀周辺
木場潟を周遊する園路沿いに約1,300本の桜並木がある



加佐ノ岬からの夕日 ●加賀市横立町 MAP▶⑤加賀周辺
日本海の大パノラマが見事。特に夕日が美しい



不老橋からの手取峡谷

●白山市吉野 MAP▶①B-4

手取峡谷屈指の景勝地。大きな藍穴(おうけつ)を見ることができる



白山白川郷ホワイトロード

2015年より「白山スーパー林道」から名称が変わり、通行料が約半額(片道料金1,600円／普通車、1,400円／軽自動車)となった「白山白川郷ホワイトロード」。6月上旬～11月上旬の道路供用期間前後に開催するウォーキングイベントや、供用時間外の早朝や夜間に年数回行われる撮影会に参加すると、普段歩くことができない道路を歩きながら撮影することができます。詳しいお問い合わせは下記へ。

●白山市観光情報センター ☎076-273-4851

姥ヶ滝

日本の滝百選に選出されている白山白川郷ホワイトロードを代表する滝。雨の直後、増水した滝と最高の紅葉の瞬間をとらえた

●白山市中宮

MAP▶①B-4

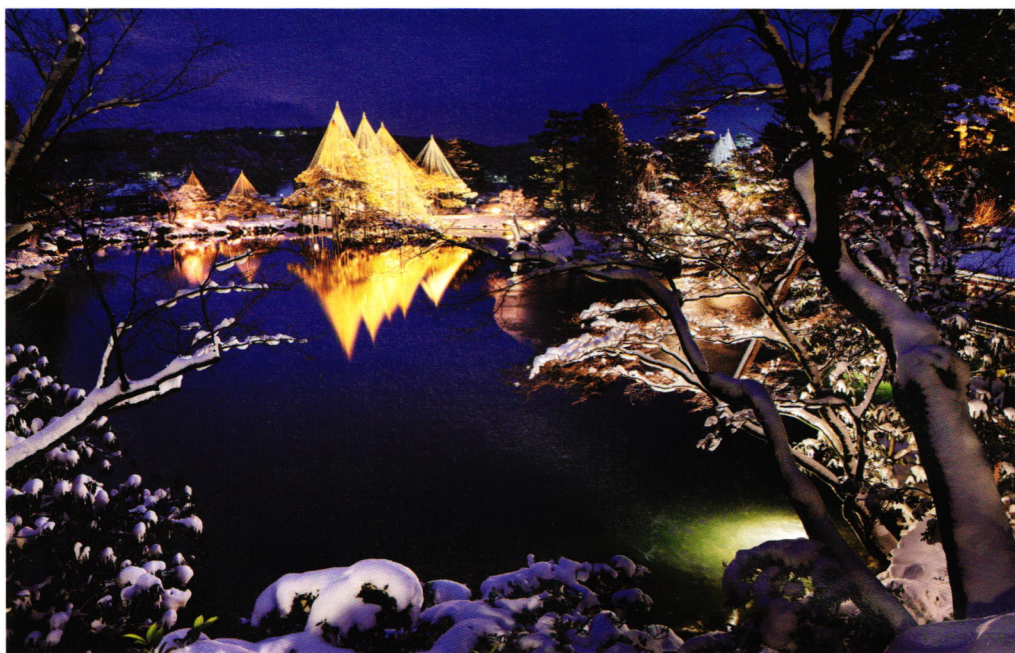
獅子吼高原から手取川扇状地と日本海に沈む夕日

急流河川ならではの見事に発達した手取川の扇状地とその先に日本海を一望できる。水田に水がはられた頃の夕日が特に美しい

●白山市八幡町

MAP▶①B-3





兼六園・冬のライトアップ

兼六園では四季ごとにライトアップされる

●金沢市兼六町 MAP▶②金沢市街 B-1

■ 新旧が織りなす金沢の絶景

日本三名園の一つである兼六園と金沢城公園は四季を通じてライトアップされます。冬のライトアップは最も雪が多い2月に開催され、タイミングがあらうと雪景色の中に雪吊りが幻想的に浮かび上がるでしょう。

桜の時期には春のライトアップ、緑深まる初夏、紅葉の秋と、それぞれが優れた被写体となります。ライトアップ中は大変混雑しますが、多少時間を遅らせると一般の観光客は少なくなるので、落ち着いた撮影できるでしょう。

写真と文／木村芳文



卯辰山公園四百年の森

春は満開の桜の花の森が広がる

●金沢市末広町 MAP▶①B-3



石川県庁からの夜景

最上階に展望台があり、20時まで無料開放

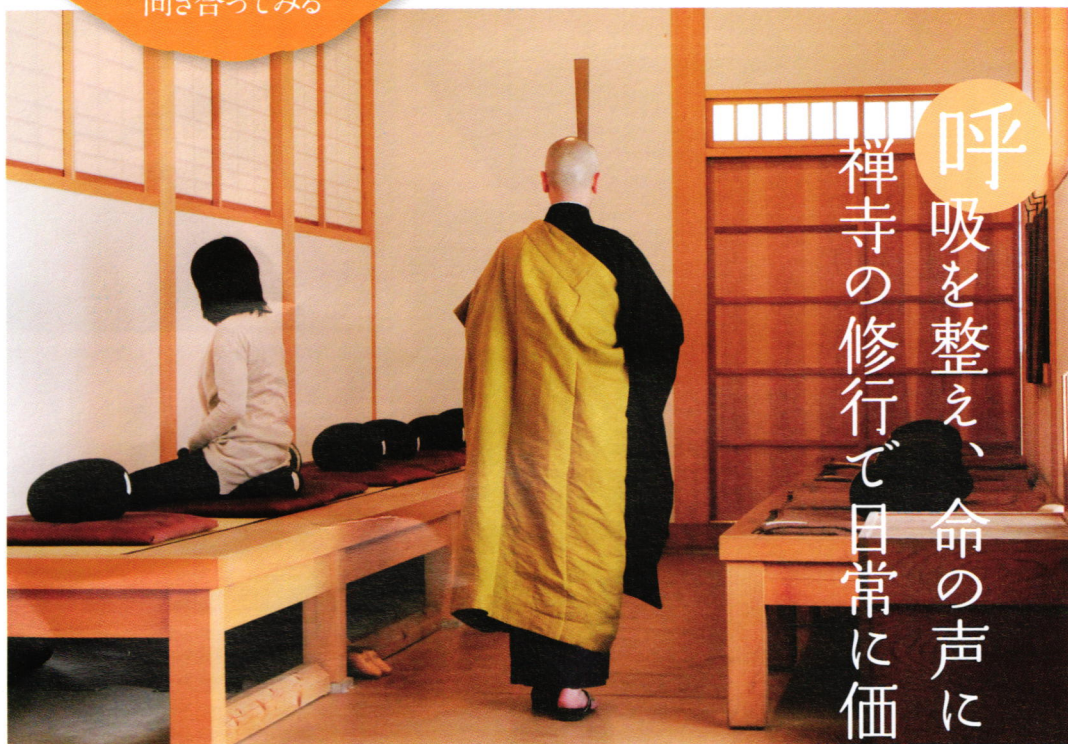
●金沢市鞍月 MAP▶①B-3



夜桜と石川門

ライトアップが終了した深夜に撮影した

●金沢市丸の内 MAP▶②金沢市街 B-1



呼吸を整え、命の声に耳を澄ませる 禅寺の修行で日常に価値を見いだす

曹洞宗の大本山の一つ、神奈川県横浜市の大本山總持寺。有名なお寺ですが、実はそのルーツは能登地方の輪島市門前町にあります。曹洞宗の第四祖・瑩山禪師は、門前町に諸嶽山總持寺を創建しました。火災によって大本山は能登から横浜市に移りますが、旧地は總持寺祖院として再建され全国から修行者が集まる一大聖地となっています。

■ 能登の名刹で行う坐禅。

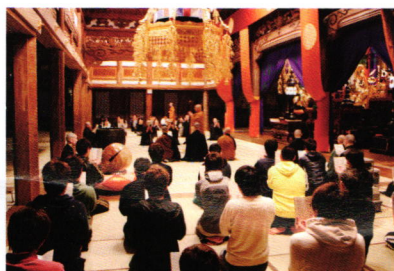
■ 思惑にとらわれず静寂に身を置く

總持寺祖院では2泊3日の参禅拝宿(修行体験)を行っています。ここでは、曹洞宗の教えの根幹である坐禅などの修行によって、自己を見つめることができます。「坐禅は苦行ではありません。集中して身をゆだねてください」と總持寺祖

院の知客(来客対応などを行う役職)・高島さんが話すように、曹洞宗の説く坐禅とは身体を安定させ、心を集中させることで身・息・心の調和をはかるもの。坐禅の際に行う深い呼吸(調息)にはリラックス効果があると、科学的にも証明されてい



広い境内には、再建された堂宇の他にも
焼失をまぬがれた伝燈院、慈雲閣、経蔵などがあります



上：料理をすることや食べることも仏道修行の一つ。
命をいただくことに感謝して味わいます
下：宿泊の場合は朝課(朝のお勤め)にも参加します

るそうです。

足を組み、呼吸と姿勢に意識を集中させます。「よく『何も考えてはいけないのですか?』と聞かれますが、考えが浮かんでくるのは自然なこと。大事なのはその考えを追いかけないことです」と教えてもらいます。

集中していると坐禅の時間はあっという間。研ぎ澄まされた空気の中、風の音や鳥のさえずりが聞こえてきます。自然に囲まれた境内には、いつもなら聞き過ごしてしまうような生命の音があふれていることに気づきます。情報があふれた社会では常に何らかの思考に接しているのが当たり前になっていて、「考えを追いかけない」というひとときが驚くほど新鮮に感じます。終わった後は頭と心がスッキリしていることに気

がつくでしょう。

- 禅の考えが教えてくれる
- 「今」を大切に生きること

曹洞宗では日常行動のすべてが修行で価値のあるものだと言っており、ここでの体験も食事や作務(掃除)なども雲水(修行僧)と同じように行います。食事一つとっても「物を取ったり置いたりするときは両手で行う」「全員が食べ終えるまで静かに待つ」など作法が決められており、体験者の多くが驚くのだそうです。ここでの体験はつまり、無意識でこなしていた日常生活の行い一つひとつと真剣に向きあうこと。「日常行動を大切にすることで、心が整えられ生活に価値を見出すことができます。『今』に真剣に

向き合えば、過去への未練や未来の不安にとらわれることなく、ありのままの自分で生きられるのではないのでしょうか」と高島さん。人生は限りあるからこそ、今を大切に生きる。当たり前のようで忘れてしまっていることを教えてください。この寺の長い歴史と豊かな自然が醸し出す独特の雰囲気で行う参禅拝宿は、他では味わえない極上の時間。遠く離れた旅先という非日常で行う修行だからこそ心に強く響き、日常生活を見直すきっかけになるのではないのでしょうか。心が疲れていると感じている方は、ぜひ能登へリセットしに来てください。

お問い合わせ

總持寺祖院 MAP▶①B-1

●輪島市門前町門前1-18-1 ☎0768-42-0005

拝観料／大人400円、高校生300円、中学生200円、小学生150円

<http://wannet.jp/noto-soin/>

基本は2泊3日ですが、1泊2日も可能です。2泊3日13,000円、1泊2日6,500円。また、坐禅体験のみの受付もしています。拝観料+坐禅体験料300円、体験時間(説明を含む)は30分～。

※なお、参禅拝宿は女性一人のみでの参加はお断りしています。

●自分と向き合う禅寺の修行旅

詳しくは
ぐるなびサイトへ



1日目

バス150分
金沢駅(午前発)＝＝總持寺祖院……寺院周辺を散策……坐禅の作法を教わり早速坐禅を体験
……薬石(夕食)……開浴(風呂)……坐禅……開枕(就寝)〈泊〉

2日目

4:00(冬は4:30)起床……坐禅……朝のお勤め……小食(朝食)……作務(掃除)……休憩……作務……中食(昼食)……写経など
……夕方のお勤め……薬石……開浴……坐禅……開枕
※2日目午後の写経は法話などに変更もできます。

3日目

起床……坐禅……朝のお勤め……小食……作務……終了＝＝金沢駅(午後着)

※バスの所要時間はおおよそのものです。 ※参禅拝宿のスケジュールはお寺の都合などで変更になる場合があります。



不動滝で滝行に挑戦してみませんか

白山を開山した泰澄大師が開いたと伝えられる中能登町の不動滝(熊野滝)。かつて石動山の修験者の荒行の場として栄えたこの場所では、毎年7月5日に滝開き祭事が行われ、僧侶や参詣者が滝に打たれて家内安全や無病息災を祈ります。事前申し込みをすれば近くの圓光寺で白装束を借りて滝行を体験することができます(レンタル料500円)。中には冬に訪れ寒行に参加する人もおり、精神力を養う新名所として話題を集めています。

不動滝 ●鹿島郡中能登町井田 MAP▶①B-2

不動滝滝行のお問い合わせ

●中能登町企画課 ☎0767-74-2806(平日のみ)



もっと 9 自然体験プログラムに参加する

森も、里山も、川も、日本海の中まで
フィールドは、白山のてっぺんから、



体験スノーケリングで日本海の中をのぞいてみよう

石川県には自然を愉しみたい人にぜひおすすめしたい多彩なフィールドがあります。そしてそのフィールドを舞台にした自然体験プログラムも豊富に揃っています。

- 日本海の中をのぞいてみたいと
- 思いませんか？

高山帯から日本海の中まで、多彩な自然体験フィールドがあるのが石川県の特徴。その中から、日本海の中をのぞける「のと海洋ふれあいセンター」のスノーケリングを紹介しましょう。スノーケリングとは、スノーケルやマスク、フィンなどをつけて、海面を漂いながら、海中の魚や海底の海藻などを観察するもの。言葉ではその魅力を伝

えにくいですが、上の写真を見ていただければ一目瞭然でしょう。

蒼い海、自由に泳ぎ回る魚の群れ、波に揺れる海藻……。岩場に目を凝らすと、鮮やかな色彩をまとったウミウシやオレンジ色のムツサングなどを発見することもできるかもしれません。陸上からは想像だになかった色彩にあふれ、トロピカルな海中を目の当たりにすれば、日本海の印象がきっと大きく変わることに違いありません。

ここで夏に実施している「体験スノーケリング」



は水着とタオルだけ持っていけば、器材はすべて用意しており、インストラクターがスノーケリングの基本を指導して海中の世界へ連れて行ってくれます。水に浮くウェットスーツを着用しますので、泳げなくても水が怖くなければ体験できます。

体験スノーケリングは7月下旬～8月中旬の土日祝に1日2回ずつ開催。約2時間30分の体験で小学校5年生以上なら参加できます。参加料は1人2,000円(器材使用料・保険料込。高校生以上は入館料200円も必要)、各回20名まで要予約。

お問い合わせ・お申し込みは、**のと海洋ふれあいセンター**

鳳珠郡能登町字越坂3-47 ☎0768-74-1919 <http://notomarine.jp/>
MAP▶①C-1

■ 自然のことを深く知る機会

スノーケリングのように、自然体験の多くは実際にやってみないと分からない、でもやってみるといまでも知らなかった世界を知ることができるというものがたくさんあります。

さらにもっと!

自然の中で心を癒す森林セラピー

「森林セラピー」という言葉をご存知でしょうか?

森林の持つ癒す効果を利用して心身の健康維持や増進を図るもので、医学的にもその癒し効果が証明されています。石川県森林公園は平成25年3月に森林セラピー基地として石川県で初めて認定されました。

園内には、歩きやすく景観に優れた5本のセラピーロードが設置されており、森林散歩と森林セラピープログラムが体験できます。



● 森林セラピーのお問い合わせ
津幡町森林セラピー推進協議会
☎076-288-6704

<http://www.town.tsubata.ishikawa.jp/therapy/>

石川県森林公園事務所 MAP▶①B-3

● 河北郡津幡町鳥越ハ2-2 ☎076-288-1214

石川県には県内で実施されている多くの自然体験プログラムを集めて提供する「いしかわ自然学校」という全国でも珍しいシステムがあり、400以上の膨大なプログラムが揃い、年間3万人以上の方が利用しています。

「県民に限らずどなたでもご参加いただけます。自然の中で楽しく深く体験し、感動をわかちあうことを通して、きっと石川の自然のファンになっていただけるはずです」とは、いしかわ自然学校事務局の言葉。とっておきの自然体験を石川県のフィールドでぜひどうぞ。



いしかわ自然学校プログラムをピックアップ

● アサギマダラを楽しむ MAP▶①B-3

秋になると渡り鳥のように旅をする「アサギマダラ」というチョウが宝達志水町の宝達山に飛来し、それを捕獲してマーキングして放ちます。チョウはさらに九州や沖縄などへ向かいます。自分がマーキングしたチョウがどこかで再捕獲され、データとして記録されるかもしれないと思うワクワクします。



● かんじきハイク MAP▶①B-4

白山麓の雪深い山の中において冬期間のみ開館するブナオ山観覧舎では、昔ながらのかんじきを履いて周囲の雪原を歩くことができます(土日祝はガイドが案内も)。雪上の動物の足跡を観察して、運がよいと野生のカモシカやサル、ニホンリスに出会えることも。



ここで紹介したのはほんの一例です。いしかわ自然学校ホームページで自然体験プログラムの検索やパンフレットのダウンロードもできますので、ぜひご覧ください。

いしかわ自然学校事務局

<http://ishikawashizen.jp> ☎076-266-0881



ゆったりと横たわる白山主峰の御前峰をバックに随所でクロユリの群生が見られる(室堂平)

日本三名山の1つ。 花の名山としてつとに知られる

登山愛好者の憧れの白山。クロユリやハクサンコザクラが咲き競う夏、白山比咩神のご神徳にあやかり、白山に登って霊峰の自然を体感しようではありませんか。

■ 千三百年にも及ぶ ■ 信仰の歴史を有する山

白山が富士山、立山とともに「日本三霊山」と称されるようになったのは、日本に数多ある信仰の山のなかで、とくに霊験あらたかな山(今風にいえばパワースポット)として広く知られていたからでしょう。「三名山」とも呼ばれるのは、「三山巡り」の流行にみられるように、早くから武士や文化人などさまざまな人たちに登られ、喧伝されて

いったことが根底にあるものと思われます。

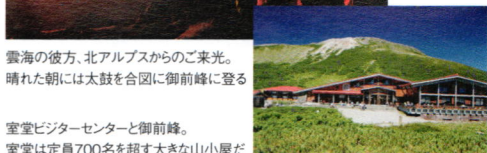
江戸時代の紀州藩士・博物学者の畔田伴存(1792~1859)もその一人。珍しい植物で知られた白山を訪れ、名前に白山を冠する高山植物などを掲載した『白山草木志』を残しています。ともあれ、百花繚乱のお花畑や茜さす雲海を見た古人は、「これぞ神仏の坐す山」と思い、心身の浄化を体感したことでしょう。霊山と自然の豊かさには深い関係があるに違いありません。



大汝峰(2,684m)から望む白山山頂部。右:御前峰(2,702m)、左:剣ヶ峰(2,677m)と7つの火口湖のうち最大の翠ヶ池



雲海の彼方、北アルプスからのご来光。
晴れた朝には太鼓を合図に御前峰に登る



室堂ビジターセンターと御前峰。
室堂は定員700名を超える大きな山小屋だ



ハクサンシャクナゲ



ハクサンコザクラ



シナノキンバイ

『日本百名山』の 「ふるさとの山」に登る

『日本百名山』の著者、石川県加賀市出身の深田久弥さんは、同書のなかで「私のふるさとの山は白山」とし、「白山ほど、威あってしかも優しい姿の山は稀だろう。仰いで美しいばかりでなく、登っても美しい山である」と称賛。高山植物や紺青の水を湛える火口湖、雪渓と岩が「天然の庭園のような趣である」と述べています。また、「花の百名山」でもある白山は、クロユリやハクサンコ



最短の砂防新道は別当出合から室堂まで6km、約4時間。随所に水場とトイレがある。下山は花と展望が魅力の観光新道が人気だが、やや健脚向き。なお、7月下旬～8月上旬の週末は、室堂の宿泊予約が受付開始(4月1日)後すぐに満員となるが多い。

●予約・問い合わせ／白山観光協会 ☎076-273-1001
白山広域は MAP▶①B-4



白山での自然観察会

7月下旬から約1カ月、石川県自然解説員研究会による自然観察会が室堂と南竜ヶ馬場で毎日、土・日は、別当出合～室堂もしくは南竜ヶ馬場間の登山・下山ガイドを行っています(参加無料・申し込み不要)。詳しくは、下記へ。

石川県自然解説員研究会

<http://www.kaisetuin.com/> ☎090-7083-5687

ザクラをはじめ、多彩な花が一般コースでも十分に楽しめるのも大きな魅力です。

白山が初めての方には、最短コース(砂防新道)で山中に1泊し、花を愛でながらの雲上散歩やお池巡りでゆったりと名山を楽しむのがおすすめ。慣れた方には、より自然が満喫できるロングコースもそろっています。

写真と文／白山自然保護センター所長 榎典雅

松尾芭蕉の 足跡をたどる

香

り高き金沢文化と

自然美に癒された芭蕉



芭蕉がおくのほそ道で行脚中に一泊した全昌寺。江戸末期の作の極彩色の五百羅漢像が見事
●加賀市大聖寺神明町1
MAP▶⑤加賀周辺



芭蕉が立ち寄った道明ヶ淵。「おくのほそ道の風景地」として国名勝に指定される
撮影／山上正次氏
●加賀市山中温泉下谷町
MAP▶⑤加賀周辺

山中や菊はたおらぬ湯の匂ひ

庭掃いていてばやりに散る柳

宮の越(金石)

金沢

永見

石山の石より白し秋の風



山中で曾良と別れた後、訪れた那谷寺。境内の奇石の景観を見て句を残した
●小松市那谷町ユ122
MAP▶⑤加賀周辺

あかあかと日はつれなくも秋の風

塚も動けわが泣く声は秋の風

秋涼し手毎にむけや瓜茄子

『おくのほそ道』の旅で加賀路を巡った松尾芭蕉。その足跡と、地元の俳人たちとの交流を、折々に詠んだ句とともにたどります。

■ 野趣に富んだ金沢のおもてなし

元禄2年(1689)3月27日、俳人松尾芭蕉は『おくのほそ道』の旅で、門人河合曾良とともに、江戸深川の芭蕉庵を出発。東北の歌枕や名所旧跡を巡った後、日本一の文化藩と名高い加賀の俳人を訪ねることを目的に、越後・越中を経て、7月15日(陽暦8月29日)、金沢に着きました。加賀路には約25日間滞在しましたが、この間に金沢から小松、山中温泉、那谷寺、大聖寺の各地を訪れ、句会を催すなどして、門人立花北枝をはじめ

とする地元の俳人たちとの親交を深めたのです。

あかあかと日はつれなくも秋の風

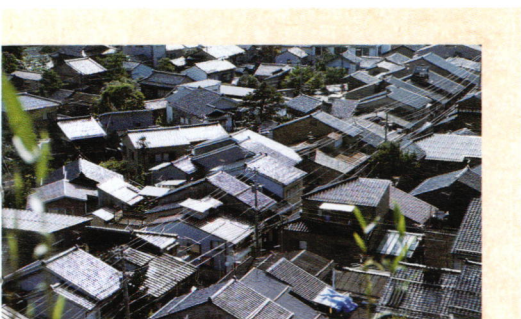
芭蕉は金沢に9日間滞在し、道中でこの句を詠みました。金沢では、対面を切望した小杉一笑の死を知り、その悲しみを

塚も動けわが泣く声は秋の風

と詠んで慟哭しました。また、芭蕉は連日、山海の幸と地野菜をふんだんに取り入れた伝統的な加賀料理を堪能したようです。

秋涼し手毎にむけや瓜茄子

これは7月20日、斎藤一泉の松玄庵に招かれ



芭蕉が訪れた柳陰軒址(現・宝泉寺)からの眺め。金沢らしい黒瓦の町並みが広がる ●金沢市子来町57 MAP▶②金沢市街 B-1



上: 芭蕉が金沢に残していったとされる
ずだ袋(縦31×横26cm、個人蔵)
右: 長久寺の境内に建つ「秋涼し…」
の句碑 ●金沢市寺町5-2-20
MAP▶②金沢市街 C-2



た際に詠じた即興の吟「残暑しばし手毎にれうれ瓜茄子」を、後に改案したものです。「瓜や茄子は夏よりも秋に風味がある。さあ、もぎたての瓜茄子は見るからに涼しそうだ。13人銘々勝手に皮をむいて頂戴しよう」と興じたのです。茄子は多分焼いて食べたのでしょう。野趣に富み、心のこもったおもてなしに感銘を受け、土地の俳人と交流を重ね、和やかにうち解けた場をもてたことの代表句といえます。

■ 長旅疲れを癒す桃源郷山中の湯

7月24日、芭蕉は曾良・北枝らとともに金沢を発ち、小松を経て、有馬に次ぐ名湯と名高い山中温泉を27日に訪れています。俳人貞室とゆかりの泉屋(和泉屋)主人久米之助(桃妖)のもとで8泊の長逗留をし、旅の疲れを癒しました。この地を桃源郷と感じた芭蕉は

山中や菊はたおらぬ湯の匂ひ

と詠んでいます。「この山中の湯に入っていると、身体の中まで湯気が染み通る。謡曲『菊慈童』のように菊の露を飲む必要はない。延命長寿の効ある湯の香が満ち満ちている」という、山中の湯の霊効を讃えた挨拶句です。芭蕉の山中滞在中の俳諧談は北枝が書き留め、『山中問答』として残しました。

曾良は金沢あたりから体調を崩していたので、この地で芭蕉と別れ、伊勢の長島へ先立っています。芭蕉にとって山中は、旅をともした曾良との惜別の地でもあったのです。

写真と文／石川県観光スペシャルガイド俳文学担当 山根公



芭蕉について学ぼう

山中温泉 芭蕉の館 MAP▶⑤加賀周辺

芭蕉が書き残した掛軸(複製)や扁額など多くの俳諧資料を公開展示

●加賀市山中温泉本町2-86-1 ☎0761-78-1720

●9:00～17:00 水曜

●一般200円、高校生以下無料

詳しくは
ぐるなびサイトへ



● 芭蕉を想い歩む加賀路の旅

1日目

金沢駅(午前発)＝車15分＝宝泉寺(柳陰軒址)＝車10分＝長久寺(「秋涼し…」句碑)
＝車90分＝全昌寺(はせを塚、「庭掃いて…」句碑、芭蕉宿泊の間、芭蕉木像)＝車25分＝山中温泉(泊)

2日目

徒歩5分
宿(発)＝芭蕉堂、道明ヶ淵(鶴仙溪)、芭蕉の館＝車25分＝那谷寺(おくのほそ道の風景地、「石山の…」句碑)
＝車70分＝金沢駅(午後着)

※所要時間はおおよそのものです。

文学作品中に描かれた地をめぐり、 石川の神髄にふれる

井上靖「北の海」の舞台となった内灘海岸 ●河北郡内灘町 MAP▶①B-3

さまざまな文学作品の舞台ともなった石川の風土。ここでは文学作品の舞台となった地と、その背景についてご紹介します。

■「天下の書府」を受け継ぐ

「加賀は天下の書府」とは、加賀藩五代藩主前田綱紀が収集した数十万点に及ぶ蔵書をさして新井白石が残した言葉です。綱紀は書籍の収集だけでなく、それら書物の保存・修復、学問の奨励に努めたと言われていいます。

このような学問奨励の風潮は明治になっても衰えることなく、北陸の人々の粘り強い気性と相

まって、石川の地には多くの思想界・文学界の偉人が誕生しました。

評論家の三宅雪嶺、「加賀の三太郎」と呼ばれた国文学者の藤岡作太郎、思想家の鈴木大拙（貞太郎）、哲学者の西田幾多郎は明治の社会をリードし、後世に大きな影響を与えました。

学問に熱心な土壌は、創作の世界でも大輪の花を咲かせました。俗に「金沢の三文豪」と呼ばれる泉鏡花、徳田秋聲、室生犀星は、幾つもの作品が舞台化・映画化され、現在でも多くの人々



金沢城外堀公園の白鳥路に建つ三文豪像
●金沢市丸の内 MAP▶②金沢市街 B-1



浅野川にかかる梅ノ橋と、「滝の白糸」像
●金沢市並木町 MAP▶②金沢市街 B-1

に親しまれています。彼らが描いた故郷の風景、風情は人々の胸を打ち、物語の舞台である石川に足を運んでいただく大切な要因となっています。特に、幻想的な作風と絢爛な文章で読者を魅了した泉鏡花は、城下町金沢の街角に次々と異界への扉を開き、人々を迷宮に誘いました。

なかでも前田家藩主の私的な庭として造営された兼六園は、加賀藩御細工所に籍を置いた彼の父や祖父とのゆかりもあり、「滝の白糸」の外題でも知られる悲恋の物語「義血侠血」や銘木旭桜を恋い慕う桜の精を描いた「桜心中」など金沢を舞台とする主要な作品に幽玄かつ、妖美な姿で描かれました。鏡花が描いた月と星と闇の結界に守られた人外の世界の物語は、「宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望」の六つを兼ね備えたとされ命名された当時の姿を今に伝えてくれています。

■ 豊饒な自然に育まれる物語

石川の美しい風景は、この土地で生まれ育った作家が描いた作品ばかりではなく、この地を第

二の故郷とした人たちが描写した作品の中にもその姿をとどめています。

昭和2年に旧制第四高等学校に入学し、金沢での3年間を柔道に明け暮れた井上靖は、その生活を『しろばんば』、『夏草冬濤』に続く自伝的小説『北の海』に仕立てています。現在のいしかわ四高記念公園にある赤煉瓦の校舎が描かれていることはもちろんですが、波高い日本海を背景に内灘砂丘で少年たちが校歌放吟するくだりは、青

旧制第四高等学校の建物は、「石川四高記念文化交流館」として公開されている MAP▶②金沢市街 B-2

●金沢市広坂2-2-5 ☎076-262-5464

●多目的利用室・レトリック体験室 9:00～21:00、展示室 9:00～17:00 ▼四高記念館 無料/石川近代文学館 一般360円、大学生290円、高校生以下無料 ④12/29～1/3





日本海に向かってそびえる「ヤセの断崖」。展望台や遊歩道が整備されている
●羽咋郡志賀町世波 MAP▶①B-1



深田久弥の故郷・大聖寺(加賀市)から見る白山
撮影/ 梅典雅氏

春の姿そのものとして読者の胸を熱くします。井上が柔道部の仲間らと見渡した砂丘の大半は住宅地となってしまいましたが、大陸に向けて広がる海原や夜空に輝く北辰(北極星)、遠く金沢の町の灯を眺めながらガタゴトと走る小さな電車は今も当時のまま私たちを迎えてくれます。

日本海の雄々しく厳しい姿は、現代においても多くの作家の憧れと畏怖の心を喚起し、作品に描写されました。

松本清張の代表作『ゼロの焦点』は、運命に翻弄される女性たちの姿を描き、戦後日本の悲哀を能登の荒涼たる風景と共に描写しました。幾重にも重なり垂れ込める灰色の雲、横殴りの雪、逆巻く波濤は女たちの悲しみと共に、日本人の忘れられない歴史を今に問いかけています。

この作品は何度も映像化されており、殊にラス

トの「ヤセの断崖」のシーンは印象的で、後のサスペンスドラマにある、「刑事が犯人を追いつめるシーン」に断崖絶壁が定番になった所以とも言われています。

また、現在の百名山ブームをつくったのが加賀大聖寺出身の深田久弥が著した『日本百名山』です。彼の残した「日本人はたいていふるさとの山を持っている」という名言は、厳しく豊かな日本海、霊峰白山に抱かれつつ育まれた石川の豊饒な自然を言い表しているように思います。

絢爛な文化を雄大な自然で包みこむように育んだ石川の風土は、この地を訪れる方々にそのつど「新しい出会いと発見」をもたらすことと思います。ぜひ、文学に描かれた地を巡り、石川の神髄に触れる旅をお楽しみください。

文/石川近代文学館学芸員 奥田知穂

●文学作品に描かれた地をめぐる旅

詳しくは
ぐるなびサイトへ



1日目 金沢駅(午後発) → 車30分 → 内灘海岸 → 車90分 → ヤセの断崖 → 車40分 → 和倉温泉〈泊〉

2日目 和倉温泉(発) → 車120分 → 金沢駅 → 10分 → 浅野川界隈(梅ノ橋) → 10分 → 兼六園 → 5分 → 石川四高記念文化交流館
… 金沢駅(午後着) 20分

※車の所要時間はおおよそのものです。…はレンタサイクル「まちのり」利用。

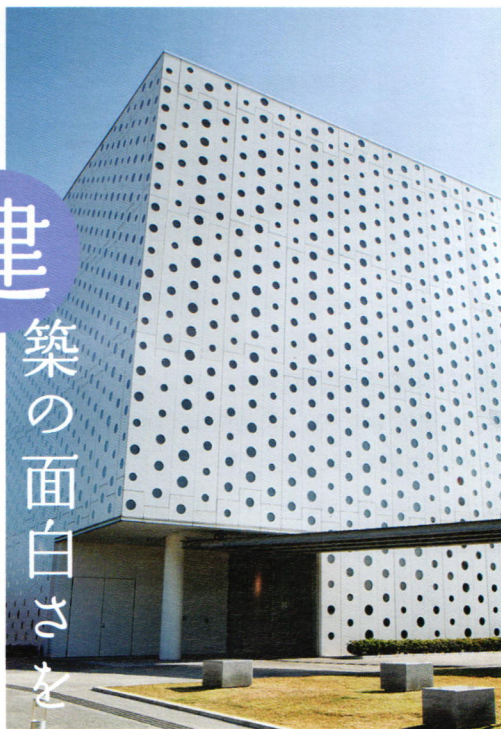


妙成寺

●羽咋市滝谷町 MAP▶①B-2

建

築の面白さを



金沢海みらい図書館

●金沢市寺中町 MAP▶①B-3

時代を超えて、
偉大な建築家たちが競いあう建築美。
石川の美しい風景と建物を訪ねる旅を
お楽しみください。



那谷寺

●小松市那谷町 MAP▶⑤加賀周辺

江戸時代の天才建築家 山上善右衛門の作品に迫る建築の旅

歴史建築と現代建築をシームレスに堪能できる
石川のアーキテクチャ・ツーリズム。共通するの

は、偉大な建築家たちが石川の風景的な美しさ
を取り込み、建築作品として表現していることであり、
そこに石川の名建築を愉しむヒントがあります。

石川の歴史建築を代表する建築家が山上善
右衛門です。たとえば妙成寺は、台地が持つ斜
みようじよう



鈴木大拙館

●金沢市本多町 MAP▶②金沢市街 C-1



金沢21世紀美術館

●金沢市広坂 MAP▶②金沢市街 B-2



石川県西田幾多郎記念哲学館

●かほく市内日角井 MAP▶①B-3

面を生かして一直線に総門・楼門・五重塔が配されています。訪れた者は石段を辿りながら五重塔まで、天に向かって歩いていく、そんな感覚にさせられる建物です。そして、景観美を徹底的に生かし尽くした那谷寺、海から入らずの森へと至る繋がり意識させる気多大社。山上善右衛門建築は、建築好きの好奇心をどこまでもかき立てます。

■ 現代建築の巨匠たちが競演する

■ アーキテクチャ・ツーリズム

一方の現代建築では、谷口吉郎氏が石川県立伝統産業工芸館をはじめとする気品漂うシンプルモダンな建築作品を数多く遺し、金沢城と兼六園が創り出す城下町との調和を求めました。金沢21世

紀美術館、金沢海みらい図書館、そして鈴木大拙館がその感性を引き継ぐように、景観と見事に溶け込みながらも強い印象を与えるのが今の金沢です。かほく市の石川県西田幾多郎記念哲学館(設計・安藤忠雄氏)も忘れてはいけません。

加賀と能登では、さらに風景の魅力と一体化した建築が愉しめます。片山津にある中谷宇吉郎雪の科学館(設計／磯崎新氏)と加賀片山津温泉総湯(設計／谷口吉生氏)は柴山潟と白山を借景として上手く取り込んでいます。能登では石川県七尾美術館(設計／内井昭蔵氏)がその土地をコンセプトに表現し、石川県能登島ガラス美術館(設計／毛綱敏毅氏)は海に囲まれた小高い丘に独自の存在感を示しながら建っています。



中谷宇吉郎雪の科学館

●加賀市潮津町 MAP▶⑤加賀周辺



加賀片山津温泉総湯

●加賀市片山津温泉 MAP▶⑤加賀周辺



石川県能登島ガラス美術館

●七尾市能登島向田町 MAP▶①C-2

詳しくは
ぐるなびサイトへ

● 山上善右衛門の作品を味わい、シンプルモダンな現代建築を対比させる旅

1日目

金沢駅(午前発) 車70分 = 気多大社MAP▶①B-2 車10分 = 妙成寺 車50分 = 石川県七尾美術館 車15分 = 和倉温泉〈泊〉

2日目

和倉温泉(発) 車110分 = 金沢21世紀美術館・鈴木大拙館 車60分 = 那谷寺 車20分 = 片山津温泉(中谷宇吉郎 雪の科学館・総湯) 車70分 = 金沢駅(夕方着)



※車の所要時間はおおよそのものです。



重要伝統的建造物群保存地区の数が石川県は日本一

市町村が決めた「伝統的建造物群保存地区」の中で、国が価値が高いと判断したものが「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されます。平成26年12月現在、都道府県別では石川県の8地区がトップです。

金沢市東山ひがし

伝統的建造物群保存地区

MAP▶②金沢市街 B-1



文政3(1820)年に「ひがし」の茶屋町として浅野川の東に創設された。保存地区内の建築物140棟のうち約3分の2が伝統的建造物で、茶屋町創設時から明治初期に建設されたものが多く、その約9割が茶屋の様式の町家。

金沢市主計町

伝統的建造物群保存地区

MAP▶②金沢市街 B-1



浅野川沿いの表の通りとそれに平行する裏の通り、それらと直交する数条の露地が骨格をなす。町家は、切妻造平入、二階建を基本とし、浅野川沿いでは、茶屋町の最盛期に行われた三階の増築が往時の繁栄を伝えている。

金沢市卯辰山麓

伝統的建造物群保存地区

MAP▶②金沢市街 A-1



卯辰山麓の寺町には、17世紀中期に至るまで段階的に寺院が配された。起伏ある山麓の地形にあって、江戸時代の切妻造平入や妻入の特徴ある寺院本堂が密度高く残り、歴史的風致をよく残す。

白山市白峰

伝統的建造物群保存地区

MAP▶①B-4



冬期の積雪は2mを超える厳しい自然環境にあり、集落は手取川西岸の細長い河岸段丘上に形成される。雪下ろしの作業のために屋根にあがる大はしごが常設されているのも特徴的。

加賀市加賀橋立

伝統的建造物群保存地区

MAP▶⑤加賀周辺



江戸後期から明治中期にかけて建設された、北前船の船主や船頭等の家屋が残る。主屋は切妻造妻入で、外壁には日本海から吹きつける潮風を防ぐために、船板を再利用した堅板を張る。

輪島市黒島地区

伝統的建造物群保存地区

MAP▶①B-1



日本海航路による海運業の発展を背景に成長を遂げ、江戸中期に150戸程の家数は、明治前期には500戸を超え、集落は街道に沿って南北に伸びて現在の町並みの骨格を形成した。

加賀市加賀東谷

伝統的建造物群保存地区

MAP▶①A-4



荒谷、今立、大土、杉水の4集落およびこれらを結ぶ河川、旧道から成る。主屋は前広間型の間取りを持つ2階建ての切妻造妻入で、4面に下屋を廻らし、大屋根には煙出しを設け、屋根と庇を赤褐色の棧瓦で葺く。

金沢市寺町台

伝統的建造物群保存地区

MAP▶②金沢市街 C-2



藩政期に形成された三つの寺町のうち、ここは最大の寺院数を数えた。寺院周辺の町家とともにまとまりある町並みを形成している。旧鶴来道沿いには寺社門前地に形成された町家が連なる。

地元の人と

もっと14

深くつながれる旅

地域と深い交流をする

祭

りに参加して、



高さ約16mの燈籠山が3基揃って巡行

キリコ祭りをはじめ、地域に根差した祭りが盛んな能登半島。中には地元住民でなくても参加できるものもあります。祭りの担い手の一員として参加することで、その土地の人の温かさや暮らしに触れることができます。

■ 日本最大級の山車が出る祭り

約380年あまりの歴史がある飯田町^{とろやま}燈籠山祭りは毎年7月20日～21日に開催されます。一番の見どころは高さ約16mにもなる燈籠山人形が飾られた「燈籠山」と呼ばれる山車です。重さ約5tにもなるこの山車は誰でも曳くことができ、曳けば穢れが祓われて1年間災厄から逃れられると言われています。

この祭りを、さらに深く体験してもらいたいと、地元・珠洲市飯田町では平成25年より、体験型

観光の「お祭り体験」をはじめました。参加者は限定Tシャツや法被^{はっぴ}を着て、地元の人々と一緒に燈籠山を曳くことができます。

17時に飯田わくわく広場に集合し、レクチャーを受けた後は燈籠山へ移動し、いよいよ燈籠山を曳きます。20時以降、吾妻橋に山車が揃うと花火が打ちあがりはじめ、燈籠山と花火の競演を楽しみながら自由解散となります。

地域の方と一緒に山車を曳くことで一体感が芽生え、燈籠山の迫力とこの祭りの奥深さを肌で感じられる貴重なひとときを満喫します。



能登とつながれる貴重な体験



ベストポジションから花火を觀賞できる



体験参加の子どもは動いている
山車にも乗れる

祭りで能登とつながりを深める

珠洲市では「珠洲デカ曳山まつり」(10月の第2日曜日開催)が約50年ぶりに復活しました。重さ20tにもなるデカ曳山をみんなで力をあわせて曳き、交流を深めることができます。

また、輪島市にある輪島キリコ会館では、日本遺産に認定された「^{あか}灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～」の雰囲気を楽しむことができるキリコ担ぎ体験を行っています。担ぎ手は10人以上必要ですが、グループ旅行などでぜひ。

「祭りの宝庫」でもある能登で、地元の人と一緒に becoming 祭りに参加す

ることは、地域をより深く知るきっかけになることでしょう。

●燈籠山お祭り体験 MAP▶①C-1

7月20日に実施。参加料3,000円(Tシャツ・飲み物・保険料含む)で要予約。2年に1回行う「燈籠山人形作り」(次回の開催は平成28年6月に実施する予定)の体験もできます。

○お問い合わせ・申し込みは、

飯田わくわく広場 ☎0768-82-7890 <http://toroyama.nt08.com/>

●キリコ担ぎ体験 MAP▶③輪島市街

担ぎ手は最低大人10人以上必要(小中学生の場合は15人以上)、希望日から1週間前までに申し込みください(1人あたり500円・法被は無償貸与)。

○お問い合わせ・申し込みは、

輪島市観光課 ☎0768-23-1146



見附島を望む海辺を、高さ18m、
重さ20tのデカ曳山がみんなで曳かれる



8月22日～25日に行われる輪島大祭



「よばれ」に呼んでもらうには

「よばれ」とは、祭りの夕方から夜(燈籠山祭りの場合は1日目)に行われ、日頃のお世話になっている方、親戚等の方を迎え入れ、家でできるおもてなしを行う風習です。

今では仕出しをとるのが主流ですが、昔は赤御膳

を出し、帰りには「こぶた」と言われるお土産(果物やお菓子や赤飯など)を渡していました。

「よばれ」は、よばれなければ参加できません。ですが、毎年、山車(やま)を曳きに来て、信頼関係ができればよばれるかもしれませんので、まずは祭りに参加してみてください。

里山暮らし気分を堪能



大人も童心にかえて川遊びを楽しむ



「おふくろの味を思い出す」と評判の料理



稲刈りとハサ干し体験



春蘭の宿の囲炉裏端でほっこり

石川県に住みたくなる

深い田舎暮らしを体験する

人情も自然も豊かな石川の山間地では、日本一の農家民宿群をはじめ、とても居心地の良い滞在ができます。「いっそ移住しちゃおうか？」そんな思いも募る、上質な旅がここで実現できます。

- 「ここでしかできない
- 田舎体験旅行」が人気

世界農業遺産に登録された能登には、農業体験や田舎暮らし体験ができる宿泊施設がいくつかあります。その代表格が能登町の「春蘭の里」です。現在47軒の農家民宿が登録され、そ

の規模は日本一といえます。

各家が手作りした箸を使う、輪島塗のお膳と器を使う、料理に砂糖と化学調味料は使わない、海の魚は出さない、そして、1軒に一日一客（一組）しか入れないなど、最低限の共通ルールはありますが、それ以外はそれぞれの宿任せ。1軒貸切りとなるため、子どもが騒いでも文句を言



われないし、逆に静かに過ごしたかったのに他の客が大騒ぎして台無しにされることもあります。

薪を割って風呂を焚いたり、カマドでご飯を炊いたり、春の田植えや山菜とり、夏はホテル狩り、秋は稲刈りやキノコ狩りなど、懐かしい体験プログラムが豊富なことが人気です(体験はそれぞれ別途料金が必要)。

また、縁側で昼寝をしたり、囲炉裏に当たりながらの思いに耽^{ふけ}ったり、何もしない贅^{ぜい}沢を味わいにやってくる方も多いとか。「客が思う田舎でいたいこと」に、時には全力で応援し、時にはそっと寄り添ってくれる、それが農家民宿の魅力です。

「ここには田舎ではあたり前のものしかありませんが、それが良いと皆さん言ってくださいます。大きな観光地に飽きた方にはぜひおすすめしたい旅先です」(春蘭の里事務局長の多田喜一郎さん)

■ 暮らすように石川を楽しむ

加賀市山中温泉から車で20分あまりの山奥にある「百笑の郷」には、快適に滞在できるようにフォームされた貸古民家が2棟あり、自炊すればより本格的な田舎暮らしが体験できます。過疎化で静まり返った山村を「百の笑顔があふれる郷にしたい」と願って作られたここには、評判のそば屋やカフェもあり、食事付きの宿泊も可能です。



百笑の郷「古民家の宿 忠平」



百笑の郷「蔵やど与平」の風呂

春蘭の里 MAP▶①C-1

●鳳珠郡能登町宮地 ☎0768-76-0021 (春蘭の里実行委員会)
http://shunran.info ●1泊2食一人14,580円(1名のみ)、同12,420円(2名)、10,260円(3～6名)。体験プログラムは別途。

一般社団法人 百笑の郷 MAP▶①A-4

●加賀市山中温泉杉水町 ☎0761-78-1853
http://hyaku-warai.jp/ ●1棟素泊まり25,000円(5名以下)。6～8名までは一人毎+5,000円。それ以上は要相談。自炊をする場合、簡単な調理器具と調味料は用意してあります。そば打ちや田んぼなど体験プログラムや四季折々のイベントも充実。



石川への移住を本気で考えるなら

地域の暮らしを知るには、現地を自分の目で確かめることが不可欠です。そこで、数日間滞在しながら地域活動を通して住民と交流を深めたい方には、「いしかわDEワークステイ」を、じっくり地域と交流したい方には「ちょい住み」体験施設を利用することをおすすめします。詳しくは下記の「いしかわ暮らし情報ひろば」をご覧ください。

いしかわ暮らし情報ひろば

http://iju.ishikawa.jp/

お問い合わせ ●石川県地域振興課 ☎076-225-1312

詳しくは
ぐるなびサイトへ



●春蘭の里滞在モデルプラン 第二のふるさとづくり

1日目

のと里山空港(午前中発)＝^{車10分}＝春蘭の里 ●[OP]石仏山と古代神話をめぐる旅、または畠山文化の興亡をめぐる旅(徒歩約4時間) ●春蘭の里／農家民宿[OP]薪割り・風呂焚き体験(約1時間) ●[OP]提灯プランやホテル狩り(7月頃)、大盃で地酒を飲むプランなど ●夜はご主人と囲炉裏談義……春蘭の里・農家民宿〈泊〉

2日目

農家民宿(発) ●[OP]山菜採り(4～5月頃)やキノコ狩り(10～12月)、魚釣りや料理体験など
＝^車＝二子山牧場で「感動のソフトクリーム」体験＝^車＝のと里山空港(夕方着)

※2日目のプランはあらかじめ決めておかず、1日目に宿のご主人と相談して決めることもおすすめです。

※車の所要時間はおおよそのものです。[OP]は体験プログラム(有料)です。

県民気分で滞在する

もっと 16

町家ステイのすすめ



伝統的

な文化遺産「町家」に滞在して
至福の空間を占領する

今もなお、数多くの「町家」が残る石川。町家は加賀百万石の歴史や伝統文化、風情を現代に伝える貴重な資産です。近年は金沢を中心に、宿泊できる「町家」が増えています。



町家が多く残る、重要伝統的建造物群保存地区のひとつ
金沢市主計町の街並み



自炊の際に漆器を使うことができる
町家ステイ施設もある

■ 文化的な景観をつくりだす「町家」

金沢はその雅な伝統文化から、時に「小京都」と表現されたこともありました。確かに京文化を一部取り入れてはいるものの、「公家文化」の京都に対し、石川県では京と江戸の文化を取り入れた独自の「武家文化」を築き上げました。そのことは金沢に数多く残る町家を見ただけでも端的に知ることができます。

戦災を免れた金沢には6,000棟以上の町家があるとされています。一口に町家というと、「うなぎの寝床」と呼ばれる京町家をイメージすることが多いかもしれませんが、加賀百万石の城下町だった金沢には商家はもちろんのこと、お茶屋など、多様な町家が存在しています。

■ お茶屋独特の「朱壁」

たとえば、お茶屋として使われていた町家ととりわけ目を引くのが鮮やかな朱壁です。藩政期、加賀藩では成巽閣の「群青の間」に代表される「青」が「高貴な殿様の色」として重んじられた一方で、茶屋街では官能的な「赤」が多く用いられました。朱壁は芸妓さんの姿を妖艶に映えさせる非日常的な舞台装置だったのでしょう。その中の一つ、浅野川に沿って茶屋や料亭が軒を連ねる主計町茶屋街に建つ「菊乃や」は江戸時代末期に建てられたお茶屋の特徴を生かして再生された宿泊施設です。建物内には紅殻格子や坪庭、箱階段、茶室など、加賀百万石の町家建築の粋が随所に残されています。

金沢の主な町家ステイ施設

●菊乃や | 金沢市主計町3-22 ☎076-287-0834 ●ほやさけ | 金沢市東山1-26-6 ☎076-253-0231 ●あかつき屋 | 金沢市晩町21-18 ☎076-255-0140
●Pongyi | 金沢市六枚町2-22 ☎076-225-7369 ●町家旅館いいたや(川久庵) | 金沢市中央通町3-21 ☎076-265-6700



一軒まるごと使える町家ステイは、なかなか贅沢

建物は古くてもキッチンも機能的な最新設備というところも多い

■ 町家ステイは ■ もうひとつの我が家のように

「旅行ではなく、まるで石川県に住んでいるみたい」と好評を得ることが多い「町家」での宿泊。日本文化に高い関心を寄せる海外からの観光客は、「町家」を別荘感覚でとらえ連泊する人が多いそうです。これはぜひ日本人旅行者にもおすすめしたい利用方法のひとつ。施設の中には、茶道、生け花、着物の着付け、謡曲など、伝統文化や芸能を体験できるプログラムを用意することで、町家という空間の中で楽しんでもらえる工夫を凝らしているところもあります。

また、昔ながらの畳や襖のある暮らしを体験できるのも「町家」ならではの設備が古いのではと思

われがちかもしれませんが、多くが、洗面、バスルーム、トイレ、冷暖房など最新設備を完備しており、快適さは折り紙付き。Wi-Fiを利用したネット環境の整備も進んでいます。

町家に宿泊できるところの多くが、1軒貸し切りで素泊まりが基本。食事は好みに合わせたお店へ足を運ぶのもよし、割烹に仕出しを頼むのもよし。もちろん、市場などで仕入れた地元・山海の幸を使って自炊するのもよいでしょう。せっかくの特別な町家ステイを楽しむには、宿泊先の施設完備状況やお得な情報を事前にチェックしておくことで、より一層、石川の魅力を満喫できます。

隅々にまで情感の漂う町家で「旅行」と「暮らし」の両方を満喫してみてはいかがでしょうか。



かなわなかったと思っていた芸妓さんとの遊興

【お茶屋の紹介】

金沢市内の都市型ホテル8社の社長、総支配人が集結し、金沢の誘客プロジェクトチームとして発足した「金澤八家」では、ひがし、にし、主計町の三茶屋街のお茶屋の紹介を行っています（金沢ホテル懇話会所属の以下8ホテル宿泊の方に限ります）。

お問い合わせは各宿泊先のホテルまで

- 金澤八家（金沢ホテル懇話会）
- 金沢都ホテル ■金沢ニューグランドホテル
- ANAホリデイ・イン金沢スカイ ■ホテル金沢 ■金沢国際ホテル
- 金沢東急ホテル ■ANAクラウンプラザホテル金沢
- ホテル日航金沢

また、町家ステイを運営する宿泊施設の中には、芸妓さん派遣の依頼や茶屋での遊興を希望する方へのお茶屋の紹介をしてくれるところもあります。



【体験】

ひがし、にし、主計町の三茶屋街では、金沢のお茶屋体験として「金沢芸妓のほんものの芸にふれる旅」を開催しています。

お問い合わせ

- 金沢市観光協会 ☎076-232-5555

石川県アンテナショップ

いしかわ百万石物語 江戸本店

銀座にできた、石川県へとつながる扉。

いしかわ百万石物語・江戸本店

豊かな自然や風土に育まれた石川の食、歴史に
培われ上質で繊細な伝統工芸品の数々など石川県の
魅力が満載のアンテナショップです。生鮮品、
加工食品の販売はもちろん、観光情報なども、観光
コンシェルジュがきめ細やかに対応します。店頭の
「ひやくまんさん」が目印です。



東京都中央区銀座2-2-18 ☎03-6228-7177

営業時間/10:00～21:00 年中無休(年末年始除く)

アクセス/JR山手線「有楽町駅」徒歩4分 東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」4番出口前

写真提供

金沢市/七尾市/小松市/輪島市/珠洲市/加賀市/白山市/内灘町/
志賀町/宝達志水町/中能登町/能登町/一般社団法人 金沢市観光協会/
加賀市観光情報センター KAGA旅・まちネット/石川県白山自然保護センター/
石川県金沢城・兼六園管理事務所/公益社団法人 石川県観光連盟/
石川県自然解説員研究会

※本誌に掲載している住所・電話番号・営業時間・定休日・料金などの表記情報は
2015年2月時点で確認したものです。都合により内容が変更となる可能性が
あります。

※料金は消費税込み(8%)表記です。

□表記記号一覧

☎…電話番号 ●…営業時間 ●…入館料・入園料など(無料の場合や団体
割引などは省略) ●…定休日など(年末年始の日にち詳細、臨時休業、お盆休
みは省略)

<必ずお読みください>

掲載の写真およびイラストはイメージです。気候や自然条件などにより掲載記事・写真と同様の景色が見られない場合があります。ガイドブックに掲載された内容により生じたトラブルや損害など
については保証いたしかねますのでご了承ください。

もっと石川

石川でしかできない上質な旅

平成27年10月発行

■発行元

新幹線開業PR戦略実行委員会

〈事務局〉

石川県観光戦略推進部首都圏戦略課

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1544

FAX 076-225-1540